「田んぼの学校」実施報告書

２０１６年度

野川で遊ぶまちづくりの会

目次

１．　企画書　・・・・・・・・・・・　１

２．　実施計画・報告書　・・・・・　２

３．　会計報告　・・・・・・・・・・　３６

４．　おたより　・・・・・・・・・・　３８

５．　参加者名簿　・・・・・・・・・　７５

６．　参加者感想文集　・・・・・・・　７８

７．　総括報告　・・・・・・・・・・　１３０

付録. 調査記録　・・・・・・・・・　１３２

１．企画書

「田んぼの学校」

企画名：佐須で持続可能社会を実践！！

野川で遊ぶまちづくりの会

都会の谷戸と湧き水の小川

東京の区部に隣接する調布市には多摩川の支流である野川が流れています。野川は府中崖線の湧き水を集めて流れる都会では貴重な清流です。その野川に府中崖線の谷戸から湧き出る水を源流とする小川（一部コンクリートによる用水路）があり、昔から、谷戸から野川までの川沿いに田んぼがありました。今でも田んぼを続ける農家があり、谷戸には雑木林があり、ホタルも飛ぶ都会では信じられないような環境が残っています。しかしながら、田んぼも減りつつあり、雑木林も手入れがされず、このままでは、この貴重な環境がなくなってしまいます。

田んぼで遊び、学ぼう

私たちの会では、会の名前にあるとおり、野川で遊びながら、野川を子供達が遊べる（泳げる）川にするために、まちづくりの提言をしていこうという趣旨で活動（1991 年 2 月発足、ホームページ： http://nogawa-tanbo.jp/）しています。

野川の支流である小川（通称佐須用水）の清掃と生き物観察会をしているとき、会員の一人が田んぼをやらないかとつぶやいた一言がこの地で田んぼをやるきっかけになりました。

何事も実践（遊ぶこと）からという私たちの活動にはぴったりの課題でした。野川のいのちはこの湧き水です。この湧き水がまた多くのいのちを育んでいるということを、体感できる田んぼはまさしく「田んぼの学校」でした。幸い、近くの農家に友人がおり、援農という形で、田んぼを始めることができました。それから２５年、会員を中心に田んぼをやってきて、自分達だけでなんとかできるという自信がつくところまで来ました。

昨年も同様の企画で後援をいただき、事業を実施することができました。本年も田んぼを調布に残したいという私たちの想いで「田んぼの学校」を継続する所存です。

この地域を保全するため、またよりよくするため、市民の方々に広く知っていただくために親子（子供は小中学生）参加者、田んぼの保全事業の後継者育成を目指した参加者を公募し、広く市民に理解していただくことを企画いたします。具体的な内容は日程表をご参照下さい。

２．実施計画・報告書

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	4月3日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	14時00分
実施日	4月3日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	14時00分
作業:	◎「田んぼの学校」開校式◎説明会					
課題:						
目的:	当会の活動を理解してもらう。また、今後の心構えなどを話し合う。					
内容:	参加者顔合わせ(自己紹介)、年間予定説明、名簿作成、質疑応答。					
要領:	●開会の挨拶 ●説明会(当会の概要、年間日程、援農) ●質疑応答 ●参加費徴収					
準備:	●佐須ふれあいの家を借りる。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻　義和、尾辻　隆子					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	4月3日	日	開始時刻	14時00分	終了時刻	15時00分
実施日	4月3日	日	開始時刻	14時00分	終了時刻	15時00分
作業:	◎田んぼの春の植物観察					
課題:						
目的:	田んぼの春を感じてもらう。					
内容:	田んぼの野草観察を行う。					
要領:	●田んぼの見学 ●田んぼの野草観察					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻　義和、講師:石森					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	4月17日	日	開始時刻		終了時刻	
実施日	4月17日	日	開始時刻		終了時刻	
作業:	種籾準備（水に浸ける）					
課題:	種って何？どうして芽が出るの？					
目的:	種の働きを理解する。					
内容:	種籾を選別し、発芽させる。					
要領:	●最初に薄い食塩水（新鮮な卵が浮く程度）に種籾をつけて、浮いた種籾を選り分ける（苗床の余ったところで蒔いてみるのもいい）。●一度洗って、きれいな水に浸ける。酸素を必要とするので1日に一回は水を取りかえる。●発芽したら、冷蔵保存（5から10℃）する。●種蒔の前日に発芽していない場合、風呂の残り湯（30℃以下）につけ					
準備:	●参加者に一握りづつ分けるもち米の種籾を用意する●					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻　義和					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	4月23日	土	開始時刻	10時00分	終了時刻	15時00分
実施日	4月23日	土	開始時刻	10時00分	終了時刻	15時00分
作業:	◎苗床作り					
課題:						
目的:	苗を育てる場所で、苗の成長に大きな影響がある。苗が順調に成長するための準備を十分にする。					
内容:	●苗を育てるための苗床を作る。					
要領:	●田んぼの南側に幅1．2m、長さ12mくらいの広さの短冊畝つくる。土の塊は種籾より小さくなるように、大きなものを手ですりつぶす。●高さは他と同じにする。高くすると、乾燥しやすくなるため。●畝の両脇は7cmくらいの深さで水路を作り水を入れる。					
準備:	●農協で100mのネットを購入する。●湿った土では土が固まりやすいので、乾燥した時でないと苗床つくりはできない。天候によっては日程を変更する。●ただし、代掻きした苗床に種を蒔く方法もある。（直播きに近い）					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:尾辻　義和、尾辻　隆子					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実					
	留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	4月24日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	4月24日	日	開始時刻	14時30分	終了時刻	15時30分
作業:	◎種まき					
課題:	種籾の不思議にせまる					
目的:	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。					
内容:	●種籾を蒔く。					
要領:	●もち米と粳米の種籾を4，6の割合で、区別（もち米に粳米が混ざるともちにならない）して蒔く。●種籾は重ならない程度に密に蒔く。●薄く（5mmほど）土をかける。●かまぼこ状にネットをかける。					
準備:						
用具:	ネット、ネットフレーム（20本）、ふるい					
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	時刻					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	4月24日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	15時00分
実施日	4月24日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	14時30分
作業:	◎用水路清掃 ◎生き物観察					
課題:	用水路には何がいる？					
目的:	地域と用水路（佐須用水）の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。					
内容:	●佐須街道から野川までの佐須用水（本流）のゴミ拾いをする●同じところで、水棲動物を捕獲して観察会を行う。					
要領:	●用水路に入り、ゴミ拾いをする。●ゴミは分別する。●空缶の中にはザリガニがいるので、捕獲する。●ゴミはリヤカーで集め、児童館裏に置かせてもらう。					
準備:	●クリーンセンター（ごみ対策課）に届け出、佐須児童館に連絡をする。					
用具:	●ゴミ袋、リヤカー、軍手●水槽、水棲動物用捕獲網					
服装・装備:						
担当者:	講師：石川氏					
実施記録:	 了時刻 留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	5月8日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	5月8日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	◎堆肥入れ ◎荒起こし					
課題:	堆肥の養分は何？　田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる？					
目的:	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。					
内容:	●堆肥を田んぼに均等に撒く●撒いた堆肥を耕運機で漉き込む●畦の草刈りをする。●刈った草は田んぼに撒く。●畦の際に水路を作り、水を引く。					
要領:	●水路に堰を作り、田んぼに水を引きいれる●畦の際に水路を作る●畦に泥を塗り付ける分を畦から削る					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	6月5日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	6月5日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	16時00分

作業:	くろつけ
課題:	くろつけは何のため？
目的:	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くと言うことを学ぶ。
内容:	●畦に泥を塗りつける。●
要領:	●取水口から一番遠いところからくろつけをする●水加減をしながら泥をこねて、畦の上部と壁面に5cmくらいの厚さで泥を塗る●くろつけが終わったら畦際の水路に水を引きいれ、くろが乾かないようにする
準備:	
用具:	
服装・装備:	
担当者:	
実施記録:	指導担当者名:
	刻 12時
	留意事項:
備考:	

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	6月11日	土	開始時刻	10時00分	終了時刻	15時00分
実施日	6月11日	土	開始時刻	10時00分	終了時刻	15時00分
作業:	◎苗取り ◎しろかき					
課題:	しろかきは何のため？					
目的:	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。					
内容:	●苗代から苗を取り、わらで適当な量を束ねる。●取った苗は水に浸けておく。●田んぼに水を十分に入れ、耕運機で代掻きをする。●表面を水平にならす。					
要領:	●結束用のわらは、あらかじめ水にぬらしておく●結わえた苗の束は籠に入れて水に浸けておく●もち米と粳米の苗を絶対に混ぜない。●代掻きが終わる頃、水を止めると高低がわかる					
準備:	●結束用のわら●籠を用意する					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	 12時 留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	6月12日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	6月12日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	14時00分
作業:	田植え					
課題:	丈夫に育て！					
目的:	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。					
内容:	●田植えをする●南側にもち米を田んぼの四割くらい植える					
要領:	●30cm間隔に印のついた縄（25m）を張り、印のついたところに植える。●縄は25cm間隔でずらしていく。●苗を植える人は、植え終わったら一歩下がって自分の足跡をならす。●水は少な目に張る。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	刻 16時					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	6月12日	日	開始時刻	18時00分	終了時刻	20時00分
実施日			開始時刻		終了時刻	
作業:	ホタル鑑賞会					
課題:	ホタルはどこに棲む？					
目的:	ホタルの生育できる環境を理解する。					
内容:	中止					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:						
実施予定日	6月19日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	11時00分
実施日			開始時刻		終了時刻	
作業:	補植					
課題:						
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	スタッフで捕植実施					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	7月3日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	7月3日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	◎一番草（草取り、根掻き） ◎畦草刈り					
課題:	田んぼに何がいる？					
目的:	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:						
実施予定日	7月15日	金	開始時刻	9時00分	終了時刻	12時00分
実施日	7月16日	土	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分
作業:	夏祭り準備					
課題:						
目的:						
内容:	●テント張り●ちょうちん付け●やぐら紅白テープ巻き●掲示板設置●当会は焼き鳥の模擬店として参加する。					
要領:						
準備:	●備長炭15Kg2箱●ビニールパック、ビニール袋、輪ゴム、アルミホイール●食材（串焼き鳥1日約2000本、焼き鳥用タレ）●保温用ダンボールケース					
用具:						
服装・装備:						
担当者:	柏野夏祭り準備					
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	7月15日	金	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分
実施日	7月15日	金	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2400本の焼き鳥を焼いて、1本120円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。 ●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	7月16日	土	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分
実施日	7月16日	土	開始時刻	13時00分	終了時刻	21時00分
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2400本の焼き鳥を焼いて、1本120円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。 ●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指					
	参					
	開					
	実					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:						
実施予定日	7月17日	日	開始時刻	9時00分	終了時刻	12時00分
実施日	7月17日	日	開始時刻	9時00分	終了時刻	12時00分
作業:	夏祭り片付け					
課題:						
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:	柏野夏祭り(片づけ)					
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	9月4日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	11時00分
実施日	9月11日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	11時00分
作業:	田んぼ生き物観察					
課題:	田んぼに何がいる？					
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	9月4日	日	開始時刻	11時00分	終了時刻	13時00分
実施日	9月11日	日	開始時刻	11時00分	終了時刻	13時00分

作業:	カカシ作り
課題:	カカシって何してるの？
目的:	稲の穂に付いた籾をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。
内容:	
要領:	
準備:	
用具:	
服装・装備:	
担当者:	
実施記録:	
	実施内容:
	留意事項:
備考:	

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	10月8日	土	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	10月16日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り					
課題:						
目的:						
内容:	●ハザ掛けをつくる(南北2列)●稲刈りはもち米から先にする●うるちと混ざらないように注意する。					
要領:	●ハザ掛けの足場を先に刈る●足は垂木3本1組として三脚を作る●三脚3組で1列とし、2列作る●梁は2段にする。2段目は釣り下げにする●梁の竹は細ければ2本組にする					
準備:	●足になる垂木、3本1組、6組分●梁にする竹（10m）10本くらい●網掛け用竹棒（3m）15本くらい●鳥除け網40mくらい●荒縄（太）1巻●結束用稲わら					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	10月9日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	10月16日	日	開始時刻	12時00分	終了時刻	15時00分
作業:	◎稲刈り ◎レンゲ種まき					
課題:	刈った稲を干すのはなぜ？					
目的:	稲を干すのはなぜなのか考える。					
内容:	鳥除けの網を張る。					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
	留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	10月23日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	13時00分
実施日	10月30日	日	開始時刻	14時00分	終了時刻	16時00分
作業:	脱穀					
課題:						
目的:						
内容:	●稲穂から種籾を取る					
要領:						
準備:	佐須地区の共同脱穀機(自走式)を借り、田んぼへ移動する。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	時刻					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	11月6日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	11月6日	日	開始時刻	10::00	終了時刻	12時00分
作業:	籾摺り					
課題:						
目的:						
内容:	●種籾から籾殻を取る					
要領:						
準備:	●籾摺り機●モーター●みの●米袋10枚					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開					
	実					
	留					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	11月13日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日			開始時刻		終了時刻	
作業:	精米					
課題:	玄米、胚芽米、精米の違いは何？					
目的:	一粒の米に託されたものを考える。					
内容:	●精米機で精米する。●粳米は7分くらいにする。					
要領:	●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	籾摺りと同時に実施					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	11月23日	水	開始時刻	8時30分	終了時刻	15時00分
実施日	11月23日	水	開始時刻	8時00分	終了時刻	15時00分
作業:	収穫祭（餅つき、豚汁）					
課題:	お米を作ったのは誰？					
目的:	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	12月4日	日	開始時刻	9時00分	終了時刻	16時00分
実施日	12月4日	日	開始時刻	9時00分	終了時刻	16時00分
作業:	親子炭焼きディキャンプ					
課題:						
目的:	◎炭焼きの実践を花炭焼きで体験し、雑木林の役割を考える。 ◎火起こし体験					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	12月18日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	12月18日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	落ち葉拾い（堆肥作り）					
課題:	雑木林って何？					
目的:	雑木林の役割を考える。					
内容:	カニ山で落ち葉を集め、堆肥置き場に積む。その時、米糠と鶏糞を混ぜ、水を十分にかけ、シートをかぶせる。					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	12月18日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	15時00分
実施日	12月4日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	14時00分
作業:	しめ縄作り					
課題:	しめ縄の由来は？					
目的:	お米作りとしめ縄の関係は？					
内容:	しめ縄も稲藁の利用の一つです。					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容: 炭焼きキャンプの中で実施					
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	1月14日	土	開始時刻	11時00分	終了時刻	13時00分
実施日	1月14日	土	開始時刻	11時00分	終了時刻	13時00分
作業:	佐須地区どんど焼き					
課題:	どんど焼きってなに？					
目的:	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。					
内容:	佐須地区どんど焼きにて餅つきを手伝う					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	1月15日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	1月15日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
	留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	2月5日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
実施日	2月5日	日	開始時刻	10時00分	終了時刻	12時00分
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	2月5日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	15時00分
実施日	2月5日	日	開始時刻	13時00分	終了時刻	15時00分
作業:	縄綯い、草鞋つくり					
課題:	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。今年から草鞋作りも行います。					
目的:	稲藁を使って縄を綯うことを通して先人の知恵を学ぶ。					
内容:	稲藁を使った縄綯い。					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル

プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	3月5日	日	開始時刻	12時30分	終了時刻	15時00分
実施日	3月12日	日	開始時刻	11時00分	終了時刻	16時00分
作業:	「田んぼの学校」卒業式（反省会）					
課題:	米つくりを終えて					
目的:	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。					
内容:	●軽食を取りながら行う。●●					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:						
	留意事項:					
備考:						

３．会計報告

2016年度収支決算

	科目	コード	金額	備考
収入の部	前期繰越金	1000	2,961	
	受講料	1110	402,000	
	事業収入	1120	69,768	柏野夏祭り模擬店収益等
	会費	1210	14,000	
	寄付	1310	80,062	
	預かり金	1320	43,600	米代他
	立替入金	1330	20,000	
			0	
収入の部合計			632,391	
支出の部	消耗品費	2110	40,300	
	通信費	2120	1,426	インターネットサーバ他
	材料費	2130	8,254	種など
	交際費	2140	8,338	
	会議費	2150	25,235	
	教材費	2160	0	
	講師料	2170	176,500	
	講師補助費	2171	205,500	
	保険料	2180	0	
	燃料費	2190	1,825	
	印刷費	2200	43,950	田んぼの学校パンフレット作製
	修理費	2210	9,180	耕運機修理
	光熱水費	2220	10,000	
	賃貸料	2230	300	ふれあいの家
	交通費	2240	0	
	広報費	2250	21,867	ホームページ更新など
	作業報酬	2260	10,000	
	預かり金支出	2310	43,600	米代
	立替金	2320	20,000	
	手数料	2330	0	
	参加会費	2340	2,500	
			0	
支出の部合計			628,775	
収支差額			3,616	

2016

'2016'!$C$2:$C$160
'2016'!$E$2:$E$160
'2016'!$F$2:$F$160

４．　おたより

みなさん、お元気ですか。いよいよ「田んぼの学校」が始まりました。この「おたより」はこれから「田んぼの学校」とみなさんとのお互いの架け橋として創られます。内容は、「田んぼの学校」からのお知らせや、みなさんからのご意見などです。「田んぼの学校」についてわからないことがありましたら、お知らせください。私たち「田んぼの学校」のスタッフも１６年目になりました。気がついたこと、いたらないことがありましたら教えてください。わからないことも質問してください。

体験をより充実させる為に

さて、「田んぼの学校」では、みなさんが田んぼでやったこと、見たこと、感じたことを記録することをお勧めします。ノートか野帳（野外観察用のフィールドノート）を用意し、思い思いに記録してください。できましたら、写真（撮りきりカメラで十分）も有るといいと思います。その日にあったこと、学んだことをお子さんと一緒に振り返ることで、体験がより充実したものになります。

種はつながっている

お米の起源は約１５０００年前、インドもしくは中国雲南で始まったそうです。お米も最初は野生のもので、昔の人は野生の種をまいて育てたようです。そのうちに、まいて育てた稲から種をとるようになり、その種を持って東へ移り住み、または、東の地方にいる人に伝えられ、２０００から３０００年前に日本に伝わったといわれていましたが、それより以前、６０００年前の縄文時代に稲作の痕跡が見つかっています。

お手元にある種籾は、そのときの種とつながっています。品種改良はされていても、遺伝子という形でつながっているのです。

人間を含む多くの動物（昆虫など）もお米よりもさらにさかのぼる年月にわたってつながっています。機会があるようでしたら、自分たちのルーツをわかる範囲で追いかけてみてはいかがでしょうか。

つながらない種

科学が発達して、いろいろなことができるようになりました。その中でも重要なもののひとつに遺伝子に関する技術や発見があります。遺伝子組み換えは、はるか昔からつながっているお米の種に、つながらないものができるということを意味しています。大変難しい問題ですが、一度考えてみることが必要です。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

４月１７日（日）の学習　　内容「種籾（たねもみ）の準備」　場所「自宅」

昔から、お米の豊作を願わないものはいませんでした。その最初の仕事が種籾の選別です。中身の詰まった重い種籾が丈夫な稲に育つことを昔の人は経験的に知っていました。

ではどのようにして重い種籾と軽い種籾を区別したのでしょうか。昔の人は、泥水に種籾をつけて沈んだ種籾を使っていました。浮いた種籾は軽くて悪い種籾として選別していたのです。

今は、塩水を使います。食塩水に種籾をつけると重くて良い種籾は沈み、軽くて栄養分の少ない種籾は浮きます。これを「塩水選」といいます。真水では沈む種籾も食塩水では浮くのはなぜでしょうか。おとうさん、おかあさん、子供といっしょに考えましょう。

それでは、入学式でお渡しした種籾（もち米で銘柄はマンゲツモチ）で塩水選をやってみましょう。

1. 準備
   鍋やボールなど適当な入れ物を用意して下さい。
2. 食塩水
   真水(水道水でも可)２００ｃｃに塩１６ｇを溶かして下さい。この食塩水の比重は約１．０８です。もち米はこの食塩水で塩水選をします。かなりしょっぱい食塩水です。
3. 塩水選
   この食塩水に種籾をつけてください。
   種籾全体をこの塩水につけ、ここで、沈んだ種籾が良い種籾です。浮いた種籾と沈んだ種籾を別にしてとりだし、それぞれ水で洗ってください。（塩分がついたままでは発芽に悪い）
   水の表面張力で浮いている場合がありますので、注意してください。
4. 芽だし
   次に、発芽を促すために種籾を新鮮な水に浸けておきます。選別した種籾の両方を同じように別々に水につけてみてください。１５℃の水で、約１週間つけると発芽します。２０℃なら５日くらいになります。水の温度が高いと早く発芽します。４月２４(日)が種まきの予定ですが、それより早く芽が出たら（芽と根が１ｍｍ位になったら)、水を切って当日まで冷蔵庫に入れておいてください。低温にすることで発芽の成長が一時的に止まります。**くれぐれも芽や根を伸ばしすぎて、モヤシのようにしないように**してください。
   芽出しに使う容器は大き目なものにし、水をたっぷり入れてください。

以上

みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の２回目になりました。

いよいよ、田んぼでのしごとがはじまります。田んぼでは、たくさんの生き物たちがみなさんをむかえてくれます。いろいろな草花、虫、鳥などです。どんな生き物に出会えるか楽しみですね。

わからないことがある場合は、遠慮なくお問い合わせ（尾辻　０８０－５０１２－５３２７）ください。

畑の広さの単位

田んぼの広さの単位についてちょっと調べてみました。私たちの田んぼは、３畝（せ）あります。約１００坪（つぼ)。坪は畳２枚（３．３平方m）です。

１畝（約９９平方m)、１０畝で１反（たん、約９９１平方m)、１０反で１町（ちょう、約９９１７平方m）です。

１畝は約１アール、１００アールで１ヘクタールなので、１町が約１ヘクタールになります。

豊臣秀吉は、太閤検地と呼ばれる田畑の全国測量を行いましたが、そのとき、度量衡の統一も行われました。そのときに、１反３６０歩を３００歩にしました。１畝３０歩となり、１アールにきわめて近い値になりました。秀吉（実際に指揮したのは石田三成）は１アールという単位を知っていたものと思っていましたが、調べた範囲ではそれらしい記述が見つかりません。反あたりの税収を上げるために３００歩にしたという記述がありましたが、どうでしょうか。みなさんも調べてみませんか。

苗づくり

私たちの田んぼでは、田んぼの中に苗床を作ります。温室などで苗を作らない場合、平均気温が 20 度以上にならないと成長に影響があります。今年は、例年より暖かい日が多いので、苗の成長が順調に進みそうです。

お米を生産する農家では､機械植えが普通なので、苗は温室で育てられ、5 月中ごろ(関東)には田植えが行われます。

みなさんのご意見､お便りをお待ちしています。

４月２３日（土）の学習（１０：００～１５：００）苗床作り
４月２４日（日）の学習（１０：００～１２：００）種まき

内容：　　苗床作り、種まき
場所：　　田んぼ
持ち物その他：　　作業着、軍手、昼食

苗床作り(２３日)

苗床（なえとこ）は種籾をまいて稲の苗を育てるところです。発芽した種籾はここで丈夫な苗として育ちます。

１．田んぼの南側寄りに１m幅、４m長の広さで苗床用の場所を東西方向に２本確保し、草を刈り取ります。
２．耕運機でできるだけ細かく耕します。
３．中央に１m幅の短冊状の畝（うね）を作ります。高さは周囲と同じ高さにします。
４．両脇に１０ｃｍくらいの深さで水路をつけ、用水の引き込み口から水路をつなげて水を引き込めるようにします。
５．畝は草の根やごみを取り除き、大きな土の固まりはふるいで選り分けて手ですりつぶします。

畦草刈り

農家の人にとって雑草（正確にはいろいろな野草というべき）は天敵と考えられています。雑草は、作物の栄養分を取ってしまったり、成長を妨げたりするからです。雑草取りは農家の人にとっては大変な重労働なので、除草剤などが使われたりしますが、有機農法では除草剤は使いません。最近では、雑草を味方にする研究なども行われています。いずれにしても、まわりの畑に雑草の種が撒き散らされることも有るので、雑草をそのままにすることはできません。

１．小さい草刈りガマで畦（あぜ）の草刈りをします。
２．刈り取った草は適当な場所に積み上げておきます。後日、荒起こしのときに田んぼに漉き込みます。このように刈り取った草は緑肥と呼ばれ、立派な有機肥料です。漉き込まれた草は土の中で腐敗して肥料になるからです。

畑の草取り

暖かくなると、畑にもどんどん草が生えてきます。小さいうちにとるのが賢明です。

種まき(２４日１０時から)

みなさんに準備していただいた種籾(もち米)と当会が準備した種籾を苗床に蒔きます。蒔き方はいろいろ有りますが、ちょうど良く蒔く（？）のがいちばん。

１．苗床をもち米用（南側)、うるち米用（北側）にわけます。
２．用意した種籾を厚すぎず、薄すぎず、ちょうど良く蒔きます。
３．各自準備した種籾も、蒔きます。
４．蒔いた種籾の上に薄く（３から５ｍｍくらい）細かい土をかけます。(覆土・ふくど)
５．板などを使ってある程度土を固めます。(鎮圧・ちんあつ)
６．苗床全体にかまぼこ状にネット(寒冷紗・かんれいしゃ)をかけます。(防鳥)
７．水路に水を引き込みます。水はかれない程度に苗床の周囲に回るようにします。

みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の３回目になりました。

私たちの田んぼは佐須の用水に依存しています。現在も水利組合によって私たちの使っている用水の支流は田んぼで水を使う時期に泥さらいを行っていますが、本流は残念ながら、手つかずの状態です。２４年ほど前、佐須用水の貴重な環境に注目した私たちは、ゴミが大量に捨てられている用水路の清掃を兼ねた生き物観察会を始めました。最初の１、２年はトラック１台分位のゴミを回収したこともありましたが、いまではその１０分の１くらいまで減っています。それでも、毎年ゴミが回収される状況が続いています。昔は、用水で洗い物などをしていることもあり、ゴミを捨てるようなことはなかったと思いますが、今では、用水に依存することがない人が多く住むようになって、その大切さが意識されていません。私たちの活動で、用水の貴重さが理解されることを期待しています。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

４月２４日（日）（１３：００～１６：００）用水路清掃、生き物観察会

内容：　野草観察会、用水路清掃、生き物観察会
場所：　佐須用水、田んぼ
持ち物その他：　作業着、軍手、用水路に入ることのできる靴（サンダルは不可）
子供の着替え（水につかってしまうことがあります）
昼食、種籾

用水路清掃

私たちの田んぼは、カニ山奥の谷戸から湧き出る水を利用しています。このように水を地域の人たちと共同で利用する場合、利用する人たちが集まって組合を作り、共同で管理することが大昔から行われてきました。「田んぼの学校」でも利用させていただく感謝の意味を込めて、また、そこに生きる生き物たちが棲みやすいようにと清掃活動を続けてきました。

用水路生き物観察会

用水路清掃にあわせて行われるのが用水路の生き物観察会です。田んぼに水を供給してくれる用水は、同時に、多くの水生生物の恵みにもなっています。湧水は元は直接飲料水に使えるほどきれいなものでしたが、多くの人が周りに住むようになり、その影響を受け、次第に飲料水としては使えなくなりました。（今でも沸騰させれば飲めます）用水路の生き物を観察することは、水の汚れ具合を知る指標にもなります。そこに生きている生き物が、この水の安全性を証明してくれているわけです。

みなさん、お元気ですか。私たちの田んぼの最大の問題は水です。一昨年度、調布市は私たちの田んぼがある深大寺・佐須地域について里山の風景を残すために都市農業を応援する事業を実施しました。その中に、佐須用水の流量確保のための事業があり、井戸が掘られて、水が少ない場合に井戸からくみ上げることが出来るようになりました。田んぼを続けるために長年の、最大の懸案が解決し、一安心です。

柏野小学校裏の田んぼに、今年は草が生えていましたが、今は茶色になって枯れています。さらに道を挟んで北側の田んぼは草が生えていません。その東側のホタル園コーポ前の田んぼは毎年草がいっぱいです。私たちの田んぼも草でいっぱいでした。草が生えないということは、そこには草の種がまったくといっていいほどないということを意味しています。それでも草の種は飛んできたり、動物が運んだりして芽を出し、成長して、やがて種を落としますが、その前に草を取ることで次の世代を作らなければ草のない畑になります。除草剤の助けがなければ、大変な仕事です。雑草が全く生えない田んぼはちょっと気になります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

５月３日の田んぼ

５月８日（日）１０：００～１２：００　の学習
　内容　◎堆肥入れ◎畦草刈り◎畑草取り◎荒起こし◎くろつけ準備
　場所「田んぼ」

堆肥入れ

　堆肥置き場でから堆肥を田んぼに運び漉き込みます。堆肥としてはできるだけ十分に発酵したものを使いますが、そうでなくても、土の中で更に分解されて肥料となります。

１．堆肥をリヤカーで４，５杯分田んぼに運んできます。
２．堆肥を田んぼ一面にまんべんなく撒きます。
３．小枝などの硬いものは分解されにくいので取り除きます。

畑と畦の草刈り

　くろつけを行うために、畦の草を刈り取ります。畑の草取りも一緒に行います。

荒起こし

　田んぼ全体を耕運機で荒く耕し、堆肥を土に漉き込みます。

くろつけ準備

　畦の整理（昨年くろつけで盛った土を削ったり、崩れている部分を補修）を行ない、畦にそって水路の水を引き込み、くろつけの準備をします。

みなさん、お元気ですか。

田植えの時期に気になるのが、用水の量です。昨年、調布市は、佐須・深大寺地域の風景を維持するための事業の中で田んぼの水を確保するために井戸を掘りました。今年は、万一水が足りない事態になっても、その井戸水でしろかき、田植えが出来そうです。

個人的なことになりますが、田んぼをはじめてから生活の中で一番変わったことが、雨を単純に毛嫌いすることがなくなったことです。それまでは、雨になると外出が億劫になったりしたものですが、結構雨を楽しめるように変わったのです。現金なものですが、雨が大切な作物の生育に欠かせないものであり、生き物にとってなくてはならない水を供給する循環の一翼を担っている点で改めてその機能を見直したいです。

みなさんも、雨を見直してみませんか、そして楽しんでみませんか？

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

井戸の水です。

田んぼの様子
（６月１日）

６月５日（日）（１０：００～１４：００）の学習

内容「くろつけ」　場所「田んぼ」

服装　どろんこになってもいい服装にしてください。子供は着替えを持ってきてください。
足で泥をこねたりしますので、長靴ではできません。基本的には裸足、地下足袋、
靴下でやります。

持ち物　タオル、着替え、昼食

くろつけ

ー「くろ」とは畦（あぜ）のことです。「くろつけ」は畦から水が漏れないようにするための作業です。泥をこねて、畦に泥を塗りつけて、表面を滑らかにします。土だけではたくさんの小さな穴が空いているので、水が漏れてしまいます。土を泥状にすることで、土の粒の間のすきまがなくなり、水が漏れにくくなります。写真はくろつけの様子です。

１．畦にそって引き込まれた水と田んぼの土をまぜて泥をこねる。泥は畦の天上部と内側に壁塗りをするように塗り付けるのにちょうどよい硬さにするのが早く仕上げるコツである。
２．くろつけは水の引き入れ口からみて一番奥の部分から仕上げていく。
３．くろつけが終わったら、畦が乾かないように水路をつけて水を引き込んでおく。
４．田んぼの内部にも水が入るように水路をつける。
５．水路に水がなくならないように引き入れ口を調節する。

みなさん、お元気ですか。いよいよ田植えです。今年は 5 月の雨量が例年より少なく野川の水量も乏しくなっています。柏野小学校の北側の水田はすでに田植えを終わっていますが、ホタル苑コーポ前の田んぼが手付かずなので用水には余裕があるようです。また、今年は少ない水量を補うための井戸が掘られたため、今後も含めて水の心配がなくなってホッとしています。

これまでも、いくどか水不足はありましたが、ほとんど何とかなりました。水争いは昔から命がけのものだったようです。「我田引水」という言葉がありますが、他人のことを考えず、自分に都合が良いように考えたり、ものごとを行ったりすることという意味があります。このような言葉が残って使われるほど、他の田んぼのことを考えずに自分の田んぼにだけ水を引くことが実際にあったということでしょう。農業用水のほとんどは、上流から順に取水されるため、下流の農家は不利になります。お米が年貢として納められていたことを考えると、仕方がないことのようにも思えますが、いかがでしょうか。

今週の土曜日には、しろかき、日曜日には田植えを行います。土曜日、日曜日の天気予報は晴れのち曇りです。梅雨の合間の有難い晴れとなりそうです。

今年のくろつけ

一昨年のしろかきと苗取りの様子

６月１１日（土）（１０：００～１５：００）の学習
内容「しろかき」「苗取り」　**場所**「田んぼ」　**服装**「かなり汚れてもいい作業着」
足元「はだしか地下足袋、またはくつした」　**持ち物**　子供の着替え、タオル、昼食、水筒

しろかき

田んぼに水を引き、土と混ぜて、どろどろ状態にし、平らにして田植えの準備をすることを言います。大半に作業は耕耘機でやりますが、平らにならすのは人でなければできない仕事で、けっこう重労働です。

苗取り

苗床から元気に育った苗を取ります。乾いた土の状態でとる方法と、水を引いて土を洗いながらとる方法があります。今回はしろかきと同時なので水を引いて苗を取ります。
苗はもち米とうるち米と混ざらないように、もち米を取ってから、うるちを取ります。
取った苗は、一握りの大きさにして稲藁で結わえ、コンテナに入れて、水路につけておきます。

６月１２日（日）（１０：００～１２：００）の学習
内容「田植え」　**場所**「田んぼ」　**服装**「かなり汚れてもいい作業着」
足元「はだしか地下足袋、またはくつした」　**持ち物**　子供の着替え、タオル、水筒

田植え

お米の苗をしろかきの終わった田んぼに植え付けます。田んぼの南側から植え付けていきます。
最初にもち米（全体の約半分）、次にうるち米を植え付けます。

１．２５ｃｍ間隔で目印のついた紐を用意して、東西方向に張る。（両端を人が持つ）
２．苗を植える人は一握りの苗を持って、紐の北側に南を向いて適当な間隔で並びます。
３．一度に植える苗は２、３本くらいで、大きな苗を植えるようにします。
４．合図があったら、自分の持ち分に植え付ける。植え付ける場所は、紐の手前側に、目印のあるところ。
５．自分の分が終わったら、一歩下がって、これから植え付けるところを手でならす。
６．全員が終わったら、紐を２５ｃｍ北側に移動する。
７．以上を繰り返していく。

みなさん、お元気ですか。

今年は多少水不足気味ではありましたが、しろかきには水が十分にあったため、田植え時も最小の水にして出来、その後もすぐに水が入るという理想的な田植えになりました。今年は隣の田んぼが放置されたままで、気になります。この何年かで一大勢力となったコナギもすでに芽を出しています。今年も、これを徹底的に取るつもりでいます。

さて、田んぼの生き物たちはどうなっているのでしょうか。　すでにホウネンエビ、アマガエルのオタマジャクシが泳いでいます。いつものようにたくさんの生き物がいるといいですね。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

田植えの様子

花をつけたコナギ

７月３日（日）（１０：００～１２：００）の学習

内容「畑の草取り」「草取り、根掻き」「畦草刈り」「生き物観察」

場所「田んぼ」

服装　普通に作業のできる服装できてください。草取り、根掻きは田んぼの様子を見てやります。畑の草取りも行いますので、長袖、長ズボンでお願いします。

持ち物　タオル、軍手、蚊取り線香（携帯用)、飲み物

草取り（一番草）

この時期に行う草取りを一番草といいます。私たちの田んぼは、これまであまり草取りの必要がありませんでしたが、だいぶ目立つようになりました。生き物観察の後、草取りをします。

根掻き

根掻きと言う作業は、稲の根の回りの泥をかき回して空気を送ったり、根を切ることで、根の生育を促進する目的があります。昔は、草取りと根掻きを両方を行う道具がありました。

根掻きの作業も私たちの田んぼでは、やっていません。根掻きはやったほうがいいという意見と、必要がないという意見があり、必ずしもどちらがいいとは言い切れないようです。

生き物観察

田んぼに水が入ると、田んぼには劇的な変化が現れます。その様子を観察します。

田んぼからのおたより2016

第8号　2016年7月15日発行

　みなさん、お元気ですか。毎年、同じように田植えをしていても、田んぼの生き物をみると、なかなか同じようにならないというのが実感です。例年田植えの後発生するホウネンエビが今年はもう発生しています。

　今年も、昨年に続き、用水路と田んぼの一体化による水管理をしています。水路の堰とセリの畑と田んぼの水面がほぼ一致していて、基本的に水中の生物が行き来できる状態になっています。

　田んぼはプランクトンが豊富で魚類、両生類、水生昆虫などにとって、餌に不自由しない場所となっています。昔の田んぼは大体そのようになっていたはずです。殺虫剤や農薬、化学肥料などが使われるようになって、それらが用水路に流出することが問題となったので、田んぼの水を水路に戻すことをやめてしまいました。佐須の田んぼも用水路の整備を行った時点で田んぼに引き込んだ水は地中に浸透させるか、下水に流すようになっています。私たちの田んぼは基本的に水路の水を汚すことがないため、一体化を考えていました。

　６月２２日の田んぼ（梅雨のさなか）

柏野夏祭り

「田んぼの学校」では、地域の方々との交流を積極的に行うため、毎年柏野小学校で行われる地域の夏祭り「柏野夏祭り」に模擬店「焼鳥屋」で参加しています。今年はグランド改修工事があるため、夏休み前の７月実施となり、日程は以下の通りです。

７月１５日(金)	９：００から１２：００	会場設営
７月１５日(金)	１６：３０から２０：００	夏祭り
７月１６日(土)	１６：３０から２０：００	夏祭り
７月１７日(日)	９：００から１２：００	片づけ

夏祭りへの参加はボランティアで、自由参加ですが、焼き鳥を焼く体験は大変楽しく、また貴重（他ではできない体験）です。当会の貴重な運営資金を作る場でもあり、是非参加してください。特に金曜日はスタッフが足りません。奮って参加を。夏祭りの子ども向け模擬店もゲーム、綿飴、かき氷など盛りだくさんで、

子どもになかなかの評判です。参加の希望は、

別に送信する連絡メールにて８月９日までに返信ください。参加の時間帯も自由です。

つまみ、お酒の差し入れ大歓迎です。詳しいことは、電話でお尋ねください。

　みなさん、お元気ですか。今年の夏は変則的な移動をする台風が多く、不安定な天気で戸惑っていますが、幸い、強風に見舞われることなくこれまできました。

　柏野小学校の夏祭りは校庭改修で７月に繰り上げ実施となりました。少し雨が降りましたが、準備した４，５００本のうち、金曜日約２，２００本、土曜日約２，３００本を売上げました。両日完売となりました。お手伝いいただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

　さて、７年前スズメ被害が拡大し、収穫が減るという大変な事態になりました。早めの対策が必要と思い、穂が出ると同時に全面を防鳥網で覆うことにしましたが、それでも、網を全然恐れないスズメが隙間から入って食べていることもありました。今年も、その経験を生かして、２重に網を張るなど万全の体制で対応する予定です。

　「スズメ対策」の定番といえば、案山子（かかし）です。大いに工夫してスズメの恐がる案山子を作ってください。光ったり、音が出たりするものがあるといいかな？　ことしも創造性豊かな案山子を期待しています。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

　雨模様の８月２９日の田んぼです。

９月４日（日）（１０：００～１３：００）の学習
内容「田んぼの生き物観察、カカシ作り」　場所「田んぼ」
持参するもの　案山子の材料（垂木以外のもの）、大工道具

田んぼの観察

秋雨前線の影響で日照不足が気になります。それでも田んぼの様子も少しずつ変わっています。秋の田んぼをじっくりと観察してみましょう。

カカシ（案山子）作り

芸術の秋とも言います。調布のすずめは少し賢いので、みなさんの創意工夫をおおいに期待しています。芸術性を追求するか、実用本位でいくか家族会議で検討してください。一家族で案山子一体作っていただきます。骨格となる部分の垂木は事務局で用意します。案山子に着せる服や、飾り付けなどの材料や大工道具は持参してください。

７年前のスズメに食べられた様子

みなさん、お元気ですか。いよいよ稲刈りです。４月２４日に種まきをしてから６ヶ月弱、６月１１日に田植えをしてから４ヶ月弱、順調に生育し、雀の被害もほとんどありませんでした。台風が何回も来ましたが、直撃はまぬがれて、稲が倒れることはありませんでした。今年は９月にたびたび雨が降り、その影響で日照が少なかったこともあり、ちょっと心配な状況で稲刈りを迎えることとなりました。今年は例年より雨が多く、水の心配がありませんでした。隣の田んぼはなぜか今年は田植えをせずに草ぼうぼうの一年でした。

９月１１日の田んぼと案山子

調布産の、自分たちの新米を食べるのが今から楽しみです。うるち米は「キヌヒカリ」という品種です。有名なコシヒカリの遺伝子を受け継いでいる品種です。もち米はマンゲツモチという品種です。

刈り取った稲ははざかけをします。2 週間くらいで稲は乾燥し、脱穀できるようになります。十分に乾燥していないと脱穀した籾が発酵してしまうことがあるようです。

はざかけ（はさかけともいう）の「はさ（稲架）」は刈り取った稲をかけて干すしくみのことです。日本全国にいろいろな形があります。田んぼの畦に木がある光景を見たことがありますか。

あれは、はさかけのために植えられたはんのき（榛の木）です。（カバノキ科の落葉高木。山野の湿地に自生。幹は直立し、15 メートルに達する。）湿地に直立してくれるということは、はさの心棒にはもってこいですね。

稲刈りは、刈り取り用のカマを使います。カマの扱いには、十分気をつけてください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

はぜかけされた稲(一昨年)

１０月８日（土）（１０：００～１２：００）の学習
１０月９日（日）（１０：００～１２：００）の学習
内容「ハザ掛け準備、稲刈り」　場所「田んぼ」
服装　長袖、長ズボンの作業着、軍手

ハザ掛け準備

はざは、１段掛けのものを南北に４列田んぼ内に設置します。

１．最初にはざの足場用の場所（６個所）の稲刈りを最初に行います。
２．足場用の垂木３本を１組にして荒縄で組んで３脚にしたものを、合計１２組作ります。
３．１列につき、３組の足場を並べます。
４．１０m前後の竹竿を３本くらい束ねて丈夫な１本の竿にして、足場の上に固定します。
５．必要に応じて、竿を補強してください。

稲刈り

８日はうるち米、９日はもち米の刈り取りをします。

１．稲株を左手で握り、右手の鎌で根元から刈ります。
２．刈り取った稲は１握り分づつを根元をクロスさせて２握りを１組にしておいていきます。
３．クロスしておかれた稲の束を濡らした稲わら３，４本で根元を結わえます。
４．結わえられた稲束をクロスしたところで左右に振り分けてはさに掛けていきます。
５．はさかけの周りに鳥除けの網を張ります。

みなさん、お元気ですか。今年は台風の直撃を受けるようなことがなく、順調に乾燥ができました。２週間も乾燥させると稲わらの水分もなくなりずいぶんと軽くなります。

脱穀とは、稲から籾を分離させることです。大昔は千把扱き（せんばこき）というもので脱穀していました。鉄片を櫛の歯のように並べ、それへ稲穂をひっかけて、籾（もみ）をしごき落とします。約３００年前の元禄年間（1688-1704）に考案されたようですが、いまでも農家の納屋にこれが残っていることがあり、昭和のはじめ頃までは使っていたのではないかと思います。

当会には、足踏み脱穀機（ミノル式）がありましたが、これは、１９１０年（明治４３年）の発明といわれています。千把扱きに比べ８倍の能力があるそうです。脱穀機で落とした籾と藁くずを分別する機械が唐箕（とうみ）です。唐箕の前は、風を利用して箕に入れた籾と藁くずを振って分別していました。脱穀している時は、ほこりがたくさん出ます。ぼうしとマスクを用意してください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

ハザ掛け（10 月 24 日）

１０月３０日（日）（１０：００～１２：００）の学習
内容「脱穀」、　場所「田んぼ」
服装「作業着、ぼうし、マスク」

脱穀（だっこく）

稲穂から籾を取ることを脱穀といいます。籾の状態は種と同じで、長期保存する場合は籾の状態で行います。次の年の種にするものは特に種籾といいます。

縄文時代前期(6000 年前)には日本で稲作がおこなわれていた遺跡(陸稲米)が見つかっており、弥生時代中期には北海道以外の日本全国で稲作(水稲)がおこなわれるようになったようです。その頃の脱穀はおそらく手か石器でしごき取っていたと思われます。

脱穀は、組合所有の脱穀機を使います。ガソリンエンジンで自走でき、あっという間に脱穀は終わります。

写真は自走式脱穀機

みなさん、お元気ですか。今週は、籾摺りと精米です。籾摺りは籾の外皮を取り除く作業です。江戸時代には土臼などが使われたようですが、現在はゴムロール式と衝撃式といういずれもゴムを使ったものになっています。一昨年、これまでの籾摺り機が壊れてしまったので、籾摺りと精米が両方兼用の中古の籾摺り精米機を購入しました。

籾摺りによって籾殻(外皮)がとれた米を「玄米」といいます。最近は、この「玄米」を食べる人が増えてきました。これは、普通みなさんが食べている「白米」にくらべてビタミンＢ群、Ｅ、リノール酸、ミネラルなどの栄養価の高い成分が多く含まれていることや、便秘に効くということがあるためです。ただ、炊き方がややめんどうです。それでも、最近の炊飯器は優れものが多いです。玄米も柔らかく炊けます。

「玄米」と「白米」の中間に「胚芽米（はいがまい）」、「発芽玄米」というのがあります。以前から「白米」を１０分として、ぬか部分の削り具合によって３分・５分・７分搗きというお米がありました。「胚芽米」は特に重要な「胚芽」（発芽する部分）を残すようにしたものを言うようです。「玄米」の表面には消化されにくい米ぬか層があり、「胚芽」を含めてこれを全部削り取ったものが「白米」になるわけです。「胚芽米」にもその削り加減で３分・５分・７分搗きなどがあります。「胚芽米」は米ぬかに含まれている前記の栄養があるうえ、「白米」と同じ様に炊くことが出来、消化吸収もいいということで、人気があるようです。

「発芽胚芽米」というのを聞いたことがありますか。「胚芽米」を研いだ後、４０度くらいのぬるま湯に２時間ほどつけると、胚芽部分が膨らみます。詳しいことはわかりませんが、ぬるま湯につけることで発芽が進むようです。この後、普通に炊くと出来上がります。「胚芽米」と「発芽胚芽米」のどちらがおいしいか、どちらがより栄養価が高いかはよくわかりません。

最近、金芽米というお米が出回るようになりました。胚芽米よりの栄養価を残し、白米のおいしさを持つと言われます。日本のこの飽くなき探究心と技術にはほんとに感心します。皆さんもネットでおいしいお米を探してみて、ぜひ食べて、結果を教えて下さい。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

脱穀機による脱穀

１１月６日（日）（１０：００～１２：００）の学習
内容「籾摺り」、「精米」　場所「田んぼ」

籾摺り

脱穀で稲わらから取った稲の実を籾といいます。籾は種の状態で、外皮に守られていますので、長期に保存が出来ます。籾から外皮(籾殻)を取り除いて「玄米」にする作業が籾摺りです。この言葉は文字どおり籾を擦りあわせることが語源になっています。籾殻は結構頑丈に出来ていて、つめを立てないと取れません。どうすればこの外皮をうまくとれるのでしょうか？みなさん、考えてみてください。持ってくることができる方はすり鉢とゴムの野球ボールをお持ちください。
答えは田んぼで。

精米

籾摺りが終わった状態のお米が玄米と呼ばれます。玄米から胚芽米や白米にすることを「精米」といいます。もち米はぬかを全部取り、「白米」にします。うるち米はほぼ玄米にちかい状態を目標に精米します。籾摺り機と精米機は同じ物です。玄米を精米機にかけるだけなので、見学となります。時間内にお越しください。

みなさん、お元気ですか。稲刈り、脱穀も終了、籾摺り、精米も終わりました。いよいよ収穫祭です。

さて、私たちの作ったうるち米は関東で比較的多く栽培されている「きぬひかり」という銘柄です。茨城県では奨励品種になっています。コシヒカリの血統を受け継ぎ、炊きあがりの絹のような色つや、そして食味も好評ということです。お米の味は、新米の精米直後がよりおいしく味わえます。また、炊き方によっても味が変わってくるので、おいしく食べるには細心の注意を払ってください。おいしく炊くコツの一つはお米を研いだ後の「浸けおき」です。２０度の水温の水で１時間つけると最適です。何かと忙しいおりですが、段取りを付けて、１時間浸けおきをやってみてください。

収穫祭のお知らせ

収穫祭は、作物の収穫を祝って行うお祭りです。毎年１１月２３日の勤労感謝の日に行ってきましたが、それなりに意味があります。この日は、「新嘗祭（にいなめさい)」が行われている日に当たります。「新嘗祭」は「しんじょうさい」ともいい、「新」は新穀を「嘗」はご馳走を意味します。 毎年この日に全国の神社で行われ、新穀を得たことを神さまに感謝する新嘗祭は、五穀の豊穣を祈願した２月１７日の祈年祭と相対する関係にあるお祭りです。 新嘗祭の起源は古く、『古事記』にも天照大御神が新嘗祭を行ったことが記されています。私たちの会では、収穫をもたらしてくれたすべてのものに感謝の気持ちを表すために収穫祭を行っています。出来るだけたくさんの人とお祝いしたいと思いますので、お友達などお誘い合わせの上、おいで頂きたいと思います。お祝い事ですので、お酒やおつまみなどの持ち込みは大歓迎です。

つきたてのお餅を食べるときの具（おろし醤油、納豆、きな粉、あんこなど）をいろいろ用意しておりますが、ご自分の田舎で食べる具でこれはぜひというのがありましたら、みなさんにご披露してください。なお、お年寄りの方（７０歳以上)、幼児は無料で参加いただけます。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

１１月２３日（水）（９：００～１５：００）の学習

内容「収穫祭」　**場所**「田んぼ」

持ち物　お椀、お皿、はし、飲み物、包丁、まな板

会費　大人(中学生以上)400 円、子供(小学生)100 円（食材費に当てます）
酒代(お酒を飲む人)

その他　２３日が雨の場合、１１月２７日(日)に延期します。

収穫祭

田んぼで取れたもち米（約２０Ｋｇ）で餅つきを行います。最初の一臼は一年の感謝を込めて、竹内さんに献上します。二臼目からはいろいろな具といっしょに皆さんで味わっていただきます。お餅の他には豚汁、焼き物（干物、焼き芋など）、小宮山さんの野趣あふれる料理を用意する予定です。

参考までに餅つきの簡単な手順を説明します。

餅つきの手順

１．もち米の浸けおき
もち米は前日に研いで、水に浸けておきます。

２．湯沸かし
蒸し器用の湯とは別にお湯をたくさん沸かします。洗い物や、臼、杵を温めておいたりするために使います。

３．もち米を蒸す
浸けおきしたもち米はざるで水を切った後、蒸し器に１升(１臼分)ずついれて蒸します。お米の芯が残らないように十分に蒸します。

４．こねる
蒸しあがったもち米は手早く臼に入れ、米粒の形がなくなるまで、杵でこねてすりつぶします。これもできるだけ早くやります。

５．搗く
十分にこねたら、搗き始めます。臼の中の餅は搗きやすいように相方が手で寄せます。搗き手と相方の呼吸が大事です。また、餅が熱いため、手に水を付けますが、つけすぎると水っぽくなるので、注意が必要です。
搗いた杵がもちから反発力を感じるようになれば搗き上がりです。

６．粉にまぶす
搗きあがった餅はそのままでは何にでもくっつくので、のし台で米粉や片栗粉でまぶします。

追伸

今年も、とれたお米を希望する方に１Kg４００円で販売します。２３日に一家族あたりうるち米(白米)１Ｋｇ、もち米０．５Ｋｇ販売します。

　みなさん、お元気ですか。今回はカニ山でキャンプをします。カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところです。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのばして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も１０m位に維持されていました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎて、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。

　調布市は、私たちの田んぼのある佐須地区において雑木林、畑、田んぼを保全する計画を実施することとなり、里山の保全に一歩前進しました。

右の写真は収穫祭

炭焼きキャンプの出欠連絡

　準備の都合上、事前に出欠の連絡をお願い致します。１１月２８日夜までにメールでお名前、大人の人数、小学生の人数、幼児の人数を返信して下さい。

　みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

１２月４日（日）９：００～１６：００）の学習

内容　炭焼きキャンプ　場所　カニ山

持ち物　□食器（はし、皿、茶碗、お椀、コップ）、□調理器（包丁）、□着替え、□おやつ（飲み物はこちらで用意します）、□空き缶（鉄板でできた茶筒やせんべいの箱などで、しっかりふたができるもの。炭焼きに使います）、□炭材（炭にしたいもの。マツボックリ、ドングリ、栗、割り箸、花など）、□差し入れ（自由です。おやつや酒の肴など歓迎）、□お米（幼児を含む参加者一人１合）

（□はチェックのためにお使いください。）

参加費　大人（中学生以上）　７００円、小学生　２００円、幼児　無料

その他　駐車場がないので、車での参加はご遠慮下さい。雨天の場合は中止（連絡網にて通知）とします。

スケジュール

９：００	集合	カニ山キャンプ場（かまどがあるところ）。時間厳守
９：３０	授業	火起こし（たき火の火付けの学習）、焼き芋
１１：００	昼食準備（父母）	
１２：００	昼食、懇談	カレー、その他メニュー未定（乞うご期待）
１３：００	授業	炭焼き、しめ縄作り
１５：３０	片付け	
１６：００	解散	

みなさん、お元気ですか。関東の平野部や調布でも紅葉が見られましたが、あっという間に冬の到来です。早いものはすでに葉を散らしています。田んぼの学校では 2011 年以降、放射能の影響を考慮して落ち葉拾いを中止してきましたが、一昨年から再開することとしました。

落ち葉などによる堆肥作りは農業に一番大切な「土つくり」にかかせない作業の一つです。「土つくり」のなかで一つの柱となるのが栄養分でしょう。肥えた土地、痩せた土地という時、栄養分が有るか無いかを示しています。これまで、２４年間、無農薬、有機栽培を目標に、毎年田んぼに堆肥を入れてきました。堆肥の原料は、カニ山の落ち葉、収穫したお米を精米した時に取れる米ぬかなどです。堆肥を作る場所は竹内さんの堆肥置き場を共同で使わせていただいています。

落ち葉、米ぬかは、混ぜ合わせて寝かせます。寝かせた落ち葉は菌類などの働きにより発酵します。発酵が順調に進むように適当に天地返し作業をします。完全な有機栽培にはこのような「土つくり」が何より大切です。農業の基本は土つくりといってもいいくらいです。カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところです。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのばして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も１０m位に維持されていました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎて、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。

炭焼きキャンプの様子

１２月１８日（日）１０：００～１２：００）の学習

内容　　落ち葉拾い

場所　　カニ山

持ち物　軍手、長靴

新年あけましておめでとうございます。田んぼの学校の授業もあと 3 回となりました。もう少しがんばりましょう。

調布市は、佐須地域の里山

今回の授業は佐須地域の行事「どんど焼き」体験と「土作り」としての落ち葉堆肥の天地返しです。

「どんど焼き」は、お正月の松飾りや門松、書初めなどを持ち寄り、集めて燃やします。その火にあたることで、一年間の無病息災がかなうといわれています。また、その熾火（おきび）でお餅や団子を焼いて食べることで風邪をひかないなどといわれています。いずれにしても昔から行われてきているこのような行事の謂われなどは多分に神様（昔からいたる所に神様が宿っていた）に対する感謝と願いが込められたものであることに違いはないように思われます。今回の授業では、実際にその行事を見学し、あらためてそのような行事が地域で長年にわたり続けられてきたのかということを考えていただければと思います。

右と下の写真はどんど焼き

もうひとつの授業が「土作り」です。一昨年までは、東京都が落ち葉による堆肥づくりを行わないように指導していることなど、放射能の汚染問題があるため、落ち葉集めを中止しました。

昨年からカニ山での落ち葉集めを再開しました。

作物を作る上で、土作りは大変重要な要素です。特に落ち葉、家畜の排泄物などからつくられる有機堆肥は農薬や化学肥料を使用しない有機農法には欠かせません。新しい落ち葉はほぼ安全と思われるので、規制が解除されることを期待しています。

左の写真は３ｍほども積まれた落ち葉（７年前）

どんど焼き(佐須地域の行事参加)

１月１４日（土）（１１：００～１２：００）の学習

内容「どんど焼き」体験　場所「田んぼ近く祇園寺前」

持ち物　箸と器（搗きたてのおもちが振る舞われます)、お正月飾り

かつて、農村の集落ではどこでも行われていたと思われるお正月の行事としてどんど焼き（地域によって呼び方が異なる）があります。佐須地域でも一時途絶えていたものを地域の青年会が復活して 20 年をこえる事業になっています。

堆肥づくり

１月１５日（日）（１０：００～１２：００）の学習

内容　堆肥づくり　場所「田んぼ」

服装など　作業ができる服装、長靴

堆肥集積地に積まれている落ち葉の天地返しをします。

皆さんお元気ですか？　２月の授業では、縄綯い（稲わらで縄を作ること）を学習します。冬の間お米作りをやっている農家では田んぼでの作業がないかわりに家の中で行う作業がありました。その代表的なものが縄綯いです。インターネットで探してみると地域特産物マイスター協議会・財団法人 日本特産農産物協会が発行する「地域特産物マイスター通信」という広報誌にこんな文章がありました。「百姓仕事にとって縄綯いは基本作業だった。結ぶにも、担うにも、運ぶにも、入れるにも、敷くにも、 履くにも、そして保温にも、皆、縄が不可欠だ。目的に沿った稲藁の選択、湿り具合と打ち加減、縄綯いのワザとコツ、 何処の軒先に立っても藁を打つ槌音とショリショリと繰りかえされるリズムが聞こえた。右の掌と左の掌の巧妙なワザが綯う１本の藁縄には、 時間（歴史）と空間（地域社会）が織り成す文化があった。」

２０００年を超えるお米作りの伝統のなかに、農作業や普段の生活に欠かせない様々なものを提供したのが稲藁で作る縄であったり、草履であったり、米俵などでありました。お米作りを学んでいて一番驚いたことは、収穫されたお米だけでなく、籾殻、米ぬか、稲藁などその課程で生まれる副産物が一つも無駄になっていないことです。ここではいちいち書きませんが、ぜひ皆さんインターネットなどで探してどんなものがあるか調べてみてください。調べたら、是非皆さんに教えてください。

２月５日（日）（１０：００～１２：００）の学習

内容「堆肥天地返し」　場所：堆肥堆積所
履物は長靴をお勧めします。
雨の場合中止。
午後も授業がありますので、お弁当をお持ちください。

２月５日（日）（１３：００～１５：００）の学習

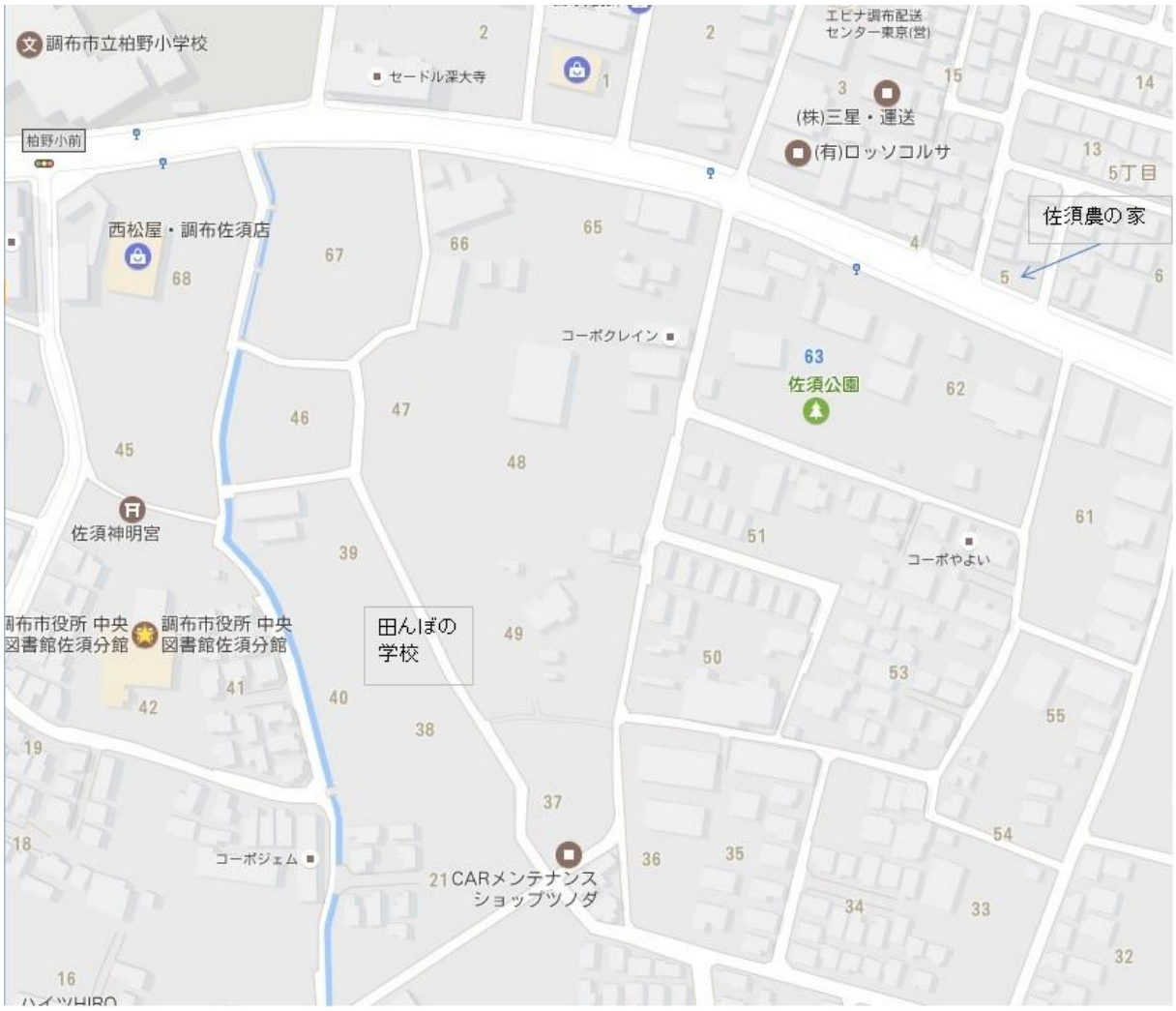
内容「縄綯い」　場所：佐須農の家（次ページの地図を参照）
室内なので雨でもやります。藁草履作りに挑戦します。

縄綯い

稲刈りをし、脱穀した稲藁は、実は大変な貴重品になっています。皆さんは実際に稲刈りをしているので、その大変さがわかると思いますが、農家が作っている田んぼの広さは、私たちの田んぼ（３畝）の最低でも１０倍から大きいところはおそらく数百倍で、とても手では刈り取りできる広さではありません。コンバインという機械で刈り取りしますが、稲藁がそのままではかさばるため、同時に粉々にしてしまいます。だから、稲藁もありません。そのため、稲藁は大変貴重なものになっています。

さて、縄綯いですが、いわゆる手仕事です。上手に、早く縄を作ることはなかなか大変です。

でも、自分で作ることに大きな意味があります。そんなことが体験できればいいなと思います。みなさん、お楽しみに。



佐須の田んぼが残る

私たちが調布市の佐須でお米つくりを始めて２５年が経ちました。今年度は、私たちにとって記念すべき節目の年になりました。調布市が、長年の懸案であった、佐須にある田んぼを残すことができる「深大寺・佐須地域環境資源保全・活用基本計画」を策定、当会が切望していた田んぼの保全が現実となったからです。当会にとっては一歩前進ですが、これからが市民の力の見せ所です。

米作りで思う事

お米作りを始めて、いろいろなことを学ぶことができ、人が生きるということがどうゆうことなのかをあらためて考える機会となりました。ほとんどの生き物は、命を授かって、体外から生きるために必要なものを取り込んで成長し、それぞれの寿命を迎えて、分解されて自然に還ります。人もサルから進化しながら、何万年という時を経て、今の自分たちがいます。お米も、約 1 万年前の中国長江流域の湖南省あたりを起源として、３千年前ころには日本に伝来し、急速に広まったとされています。弥生時代と重なる時代で、かつては弥生式土器の発見で弥生時代とされていたものが、水田による稲作の農耕の広まりが弥生時代というようになったようです。今年私たちが作った稲も一万年前に始まった稲にそのルーツがあり、つながっていることに生き物の不思議を感じないわけにはいきません。植物である稲も、種が発芽の条件が満たされると、芽を出し、根を張り、葉を広げ、成長します。稲は、根から様々なものを取り込み、葉に太陽光を受けて、成長して、花をつけ、雄しべは花粉を散らし、雌しべが花粉を受粉して米粒となる次世代に命をつなぐ種ができます。今のお米は、一粒の種から５００粒くらい収穫できるようです。

あらためて思うことは、地球にとって太陽が太古のころから人間のみならずすべての生き物の“元”になっているということです。日本には四季があり、それぞれの地域で太陽の恵みを最大限に利用して作物をつくり、営々と日々を紡いできたことを再認識するこの一年ではなかったでしょうか。

地球規模で起こっているさまざまな環境問題を解決するためには、グローバルな視点とローカルな視点での取り組みが必要です。「田んぼの学校」では、そのローカルな取り組みとして身近な環境である「田んぼ」のある環境を守ることを重要な目的にしています。

「田んぼ」には環境問題を解決するヒントがたくさんあります。「田んぼ」の米作りをとおしてそのいくつかでも気がついていただければと考えています。みなさん、この一年でいくつくらい気がついていますか？

宿題

今回の学習には、宿題があります。忘れずに持ってきてください。

宿題は、この１２ヶ月間に田んぼで学んだことの感想文（長さは自由です。）です。この一年、参加した授業をもう一度、家族で振り返ってみてください。おとうさんも、おかあさんも、こどもたちもみんな書いてください。（書けない子どもは、おとうさん、おかあさんが代筆してください。）卒業式に読み上げていただきます。

卒業式欠席の場合も３月９日までに宿題は提出（メールなど）してください。

出欠席の確認

卒業式の出欠席を３月９日(木)までに尾辻までメールして下さい。

３月１２日（日）（１１：００～１６：００）の学習

内容「卒業式」　場所「佐須ふれあいの家」（佐須児童館）

持ち物　お昼のおかず（参加される家族の人数分より少し多めにお持ちください。）

飲み物（御茶など）取り皿（一人２枚）、はし、カップ

（田んぼで取れたお米でお赤飯、おにぎりを用意します。ジュースなども事務局で用意します。）

出欠確認のメールをお送りしますので、そのメールに返信してください。３月９日まで必着。

５．参加者名簿

親子コース

伊賀	調布市布田
岩崎	調布市富士見町
植木	調布市西つつじヶ丘
金入	調布市柴崎
窪田	調布市国領町
河野	府中市押立町
小林	調布市国領町
左古	調布市深大寺元町
鈴木	調布市深大寺東町
高倉	調布市国領町
高橋	調布市佐須町
田原	調布市国領町
寺澤	調布市西つつじヶ丘
時安	狛江市中和泉
中島	狛江市西野川
西山	狛江市西野川
沼田	調布市多摩川
萩谷	狛江市中和泉
林	調布市佐須町
藤井	調布市深大寺東町
増川	狛江市和泉本町
水野	調布市西つつじヶ丘
宮田	狛江市中和泉
棟方	調布市調布ヶ丘
村田	調布市若葉町
渡邊	調布市国領町

基礎コース

大内	台東区西浅草
斉藤	調布市多摩川
清水	中野区中央
原田	世田谷区上祖師谷
廣瀬	江東区豊洲
湯本	調布市佐須町

スタッフ

尾辻	調布市八雲台
今江	狛江市東和泉
入山	調布市布田
忍足	調布市東つつじヶ丘
鬼弦	調布市飛田給
小宮山	調布市深大寺東町
堀内	稲城市矢野口
高橋	調布市佐須町
西山	狛江市西野川
増川	狛江市和泉本町
四方田	山梨県北斗市
原田	世田谷区上祖師谷

６．参加者感想文集

『田んぼの学校　２回目の卒業にあたって』

堀内

一昨年、調布をうろうろするようになってから、はや２年。
１年目よりもいろんな事が楽しいと感じています。
同じことを繰り返すこと、季節の移ろい、人と付き合うこと。
去年と同じ時期に、同じ人、新たな人と同じ事をします。
去年はああだったとか、今年はどうだとか。
そうした話ができる人がいること。
春になれば苗を育て、夏が来る前に田植えをして。
柏野のお祭りは最高に楽しいですね。
さながらビールを飲みながら参加できる学園祭の模擬店といったところでしょうか。
秋には収穫祭。
こんなに大勢で、たくさんの美味しいものに囲まれて、野外でわいわいできる機会は貴重だと思います。
冬になればお飾りをつくったり、また来年の準備を始める。
そうしたことを繰り返せる喜び、人の中で生きている喜びといいかえられるでしょうか。
そうしたものがありました。
いつも何気にメールで届くおたより。
ただ単に遊ぶのもよいですが、遊んで得た体感を裏づけたり、さらに興味を刺激する知識。
実践の場で、自然環境でおきるさまざまの事、稲について、土について、生き物について、文化や風土について、今の私たちの暮らし方について。
座学と実践でした。
この学校のよさは、外に広く開かれていることだと思います。
限られた人たちで、内内で楽しむのではなく、新しい人が毎年やってくること。
そして特定の世代の人たちの集まりではないこと。
田んぼにむかっても、手伝いに飽きて、虫を捕まえにいく子供たち。
こんなに子供が子供らしく自由に振舞える場所と機会。
残念ながらとても贅沢な時代になってしまいました。
遠くで子供の声を聞きながら汗を流す。
いや流している時間より、飲んでいる時間のほうが長かったか。
だがどちらもとても心地がよいものです。
また別のよさは、その人なりのかかわり方をよしとしていること。

参加者みんながそれぞれの個人の都合を優先し、無理なく参加するスタイルを容認していること。
だからいつも気兼ねなく参加するができる。三々五々に集まって散っていくこの感じ。
田んぼに精を出す人がいて、子供と遊ぶ人もいて、記録する人がいて、料理で楽しませてくれる人もいて、虫や、草花について教えてくれる人もやってくる。
それぞれが、それぞれのできる事、したい事をして、それが学校全体の、集団としての喜びになっていること。
ひとりひとりに聞いた回ったことはありませんが、子供にこうした自然体験をする機会をつくろうとおもっていたのに、自分の方が楽しんでいるかもと感じている人は少なくないと思います。
気づけば私たちの田んぼはある種のコミュニティーをつくりだしているといつも感じています。
田んぼを中心とした、年齢や性別、経験や、職業、それぞれの社会での役割を超えたコミュニティー。
いまここに集まっている人たちは、最初に来たきっかけはそれぞれでも、自分なりの田んぼの楽しみをもっているのではないかと感じています。
20 年以上にわたって尾辻さん夫妻をはじめに、ここまで続けてきてくださった方たちが作ったものの上で私は楽しんでいます。
そう。この事が私にとって一番すばらしい発見です。続けてきた事が、後から来た人たちの喜びになっていること。そしてそれを強く実感できる。
私たちが田んぼの学校を楽しめば、楽しむほど、次に続いていく人たちの喜びになっていけば本当に素晴らしいことだと思います。
田んぼとは、田んぼの学校とは、私にとってそうしたことを実感をともなって知る事ができる場所です。
田んぼが食べ物を生産する場所としての役割が主の時代より、今の時代のほうが田んぼはその価値をいろいろな点で、あらゆる世代の、それぞれの状況に応じた多様な価値を増していると感じました。
これからもこの学校を続けてゆくために、自分自身としてはやるべきこと、やりたいことを整理して臨みたいと思います。
そして調布に私たちのような人がもっともっと増えてゆけばよいなと思いつつ、今年の感想とさせていただきます。
尾辻さん、みなさん。1 年間、さまざまにありがとうございました。

今回で3回目の参加となり田んぼの一年間の流れにもようやく慣れてきました。

普段の生活では決して体験する事の出来ない貴重な時間を感じる事が出来て満足しております。

また、田んぼの時間は季節ごとに様々な作業があるので、それまでよりも更に深く四季を感じる事も充実した時間を実感しました。

何より「お米」という日本の文化を一から経験する事で、普段の食事にも、日本食を食べる時には一層の満足感を得る事が出来た事。そしてこの様な機会を作ってくれた事、また作業に関った皆様に感謝したいと思います。

河野 裕祐

田んぼの学校の卒業証書を頂くのも今年で3回目。
昨年は妊娠・出産で参加できませんでしたが、家族が一人
増えてまた田んぼに戻ってこられたのを嬉しく思っています。

冬が終わり、春を感じるようになると、佐須の田んぼの
暑い位の日の光を浴びるのが待ち遠しくなります。
4月～6月の週末の予定は田んぼのスケジュールを
考えながら組むようになりました。人間主体ではなく
自然に合わせて活動する心地良さ、すがすがしさを
教えてくれたのは田んぼの学校です。
来年度、また生温かい泥の中に足を入れて、ドロドロになった
息子の姿を見るのが楽しみです。
一年間ありがとうございました。来年度も宜しく
お願い致します。

河野 志保

だいめい
田んぼのかんそう

3/12

なまえ
こうのそうじ

ぼくは、田んぼの学校でもちつきが一番楽しかったです。

なぜなら、もちつきの日はぼくのたん生日だからです。

またもちつきをしてもちをいっぱい食べたいです。

田んぼの学校に参加して

田んぼの学校の活動に参加すると日々雑多な中でも
人々の生活の原点を思い出させてくれるような気が
して、楽しく活動させて頂きました。
今年は子どもの行事もだんだん多くなり、思う様
に出席率を上げられませんでしたが、特別でな
い、普通の自然に触れられる機会を持てること
に、いつも感謝しております。
今年も一年間親子共々大変お世話に
なり、ありがとうございました。

山崎恭子
二〇一七年一二月一三日

たんぼはいっぱいいっ
てたけどなんかいっ
てもたのしいです。
また来ようね
もちきもたのしかっ
たしてくれりがと
いがにもみつけたか
ってよかった
いちご、きらう

今期田んぼの学校に参加していただいたご家族のみなさま、ありがとうございます。卒業おめでとうございます。
佐須の小さな田んぼでの１年間がこれからの皆さんの生活になんらかの影響を与えてくれたら嬉しいと思います。

宮澤憲治の雨ニモマケズという詩があります。みなさん、よくご存じでしょう。
その中に

ヒドリノトキハナミダヲナガシ　原文まま　日雇い仕事のときは

サムサノナツハオロオロアルキ

という一節があります。実際には宮澤憲治は優れた農学者でもあり、農民の危機にあたって手をこまねいているというようなことはありませんでした。実践の人であり、常に農民に寄り添い、その立場を思いやる人でした。
私自身は東京生まれの東京育ちで、農作業や田んぼに全く関りを持つことなく育ちました。
大地を守る会に入ってから、千葉の山武にある体験田に小さかったこどもを連れて通うようになりました。それがひいてはお米の専門委員会「米プロジェクト21」に参加し、日本各地の米の生産者や棚田を訪ねることになり、そして大雨や嵐などの荒天には耕す人、種撒く人を思うようにもなりました。都会に住み会社に勤めているだけでは想像も出来なかった風景に出会い、人に出会い、影響を受けてきました。米は日本の文化に深く結びついています。校長の毎回のお便りでも米作りの歴史、文化について触れています。そうしたものから謙虚に何かを受け取ることで暮らしを自身を豊かにしていくことができます。
また調布市では政策によって田んぼの保全をしていくことが決まっています。この学校の活動が大きく影響を与えた結果です。以前から全国の小学校が必ず１枚田んぼを持つことになればどんなに良いだろうと考えていましたが、そんな夢にも少しだけ近づいたのではないでしょうか。どんなことも続けていくことで道ができ、開けていくのでしょう。田んぼのある風景を大切にし、田んぼでコメを作ることの意味をこれからも伝えていきたいと思います。

鬼頭千枝子

「田んぼの学校」

2016 年度から参加の田んぼ１年生の宮田です。

2000 年に就職で上京しこの辺りに住むこととなった時に近所を散策し一目で気に入ったのが柏野小裏から見るカニ山の景色でした。以来付近を通る度に田んぼに並ぶ案山子を見ては「将来子供が出来たらこういう活動に参加したいなぁ」などと独身ながらに思っておりました。そんな私も２児の父となった秋のある日、子供とカニ山遊びの帰りに田んぼ横を通り過ぎると収穫祭が行われており「よかったら寄っていってね」と声をかけて頂いたのが尾辻先生でした。そこで餅つきをさせて頂いたり田んぼの活動内容をお聞かせ頂き翌年からの参加を決め今にいたります。

授業内容は生き物観察会から焼き鳥屋台まで田んぼに特化せず地域に根付いた活動内容で親も子もとても楽しむ事が出来ました。田んぼについても田植えや収穫を行った事はこれまでにもありましたが発芽から田んぼづくりまで携わったのは初めての経験で米作りの大変さも体験する事が出来、貴重な体験となりました。

尾辻先生と並び１年間皆勤賞で通した我が家！おかげ様で全イベントを経験し楽しいイベントの回、しんどいだけの回との区別が出来るようになりました。「ははぁーん。通りで常連さんは今回来てないわけだ。」と分かるようになりました。釜とフォークを使う回は行っちゃいけないと理解しました。来年度からは収穫祭とお芋堀メインで参加したいなと思います（笑

私たち夫婦も自然の多い地域で幼少時代を過ごしており、妻などは電気も通っていないような環境で敷地内の猪を捕って食べるような環境で育ってまいりましたので子供たちにも山でカブトムシ捕り、川でザリガニ捕りという当たり前の環境を与え残したいという気持ちが強いので本活動のような主旨の活動には今後も継続的に参加していきたいと考えています。また自然を残し子供とつなぐような活動を自分でも何か出来ればと思います。

この１年を通し、田んぼの学校への入学、カニ山への引越しと、この地域に縁のある一年でした。この縁を大切にし地域との関わりを大事にしていきたいと思いますのでこれからもよろしくお願いいたします。

今年は2年目の田んぼの会でした。
1年目より、少し多く参加することが出来
親子で随分楽しむことが出来ました。
毎回、みなさんが温かく、子ども達の遊び相手に
みなさんがなって下さるので、私に
とっては息抜きが出きる時間でした。
本当にありがとうございました。
とても素敵な活動だと思うので、子ども達が
大きくなっても続けていけるように、少しでも
活動の協力が出来ればと思っています。
来年も、継続するつもりですので
引き続きよろしくおねがい致します。

ちなみに玄米は、甘酒にしてみました

金入 有紀子

金入さやです。

どろんこあ
そびがいちば
んたのしかっ
たです。

つぎもがん
ばります。

田んぼの学校　感想文
原田稔也
2017.02.12

■「田んぼの学校」で学んだこと

田んぼの学校に、通い始めて 3 年が経ちまして、年々、体が重く、しんどくなって、「しろつけ」「くろつけ」とか厳しくなって、自分の体力のなさに愕然とするのでありました。そんな肉体の限界の先に感じたことは、「ああ、田んぼっていつもきれいだなあ」ということでした。
田植えが終わって、水が入って、鴨がすいすい泳いで、水の波紋がきらきら光っていたり、稲が育って青々として蜘蛛やカエルやアメンボやゲンゴロウがいっぱい出てきて生き生きとしだしたり、いよいよ実りの秋になって、たわわの稲が夕焼けに照らされて・・・田んぼを眺めながら日本酒を頂く、という瞬間が人生の至福の瞬間なわけです。
そもそも人は、山や川や海や澄んだ空気・・そんな自然に癒され、美しいと思うのですが、田んぼには、自然界の様々な要素が凝縮されて、それが人の手で作られていくというところに独特の造形美を感じるのでしょう。太陽と水と土と稲と生き物。田んぼはそれらが見事に調和された「作品」と思うのです。しかも、これが三千年もの昔から脈々と続けられていることを思うと、稲穂のようにこうべを垂れるしかありません。

●東京で暮らすこと、仕事をすることって

皆さんは、東京で働き、暮らしていると、生きにくいなあと思うことはありませんか?
私は学校を出て 30 年間ずっと東京に住み続けてきましたが、気がつくと仕事一辺倒の人生になっていました。仕事はやりがいといえるのは 30 代まで、50 代になるとさすがにきつい。人は食うために働かなくてはなりませんが、稼ぐことだけに人生を消耗するわけにはいきません。
稼ぐこと、暮らすこと、務めること、遊ぶことのバランスが、これからの人生にはとっても大事になると思うのです。「暮らす」とは家族との時間を大切にすること、「務める」とは自分の住んでいる地域に奉仕すること、「遊ぶ」とは生活を彩り、人生を謳歌すること。そして、その基盤となるのが「地域」です。私は、自分の立っている場所＝地域をよく知らなくちゃと思って 3 年前、田んぼの学校に参加しました。
「稼ぐ」「暮らす」「務める」「遊ぶ」のバランスははいまだに悪く「稼ぐ」に駆逐されてしまっています。「稼ぐ」ために他を犠牲にする状態がますます酷くなってきています。安部政権がそれに追い討ちをかけるのです。

●田んぼの学校にはすべてあるということ

田んぼの学校での学びの 1 つに、「食べるものを作るって面白い」というのがあります。食うために稼いでいますが、食い物そのものを作れるようになれば、もう「稼ぐ」必要はなくなります。「稼ぐ」の時間を「面白い」

と思いながら取り戻せるのです。そんな視点に立ってみると田んぼの学校には、「稼ぐ」「暮らす」「務める」「遊ぶ」の要素が程よく揃っているように思えるのです。食って、遊んで、仕事して、共に時間を共有して、たまに酒飲んで・・・ほどよく揃っているので、そのどこに参加して、どう使うかは参加者一人ひとりの意識の問題と言えるのです。私が追い求めていた生き方のヒントがここにあったのだと、昨晩、気がつきました。

●ひとり田んぼの学校の開校

私事になりますが、田んぼの学校と卒業する、このタイミングで、東京も卒業としようと思います。
この度、妻の実家のある愛媛県松山市に移住することにしました。松山には介護を必要とする義母が待っております。松山で、ひとり田んぼの学校を開校しようと思います。「稼ぐ」「暮らす」「務める」「遊ぶ」のある生活を実践したいと思います。そのキーワードになるのが「半農半 X」でしょうか。農業を暮らしの基盤におきながら、今までに培ったスキルを取り入れた X と、新しく学ぶ X を活かしたハイブリットな「稼ぎ方」を模索しようと思います。もともと、私は映像制作を生業にしていましたので、さしずめ X は映像となり「半農半映」となるのでしょうか。まずは、田んぼです。「たんぼ、タンボ、田んぼ」と呪文のようにつぶやいていたら、過疎地に田んぼをやりながら味噌作りをしている同業者と出会いましたので、しばらく弟子入りしていろいろと学ぼうと思っています。妻の反対は目に見えているので、言えません。

●結び

米作りは、一年ごとに終わりますが、学校は一年で終わりではありません。私のように、行ったり行かなかったりの赤点だらけの生徒でも、毎年、継続していると、なかなか味わい深い学びがゴロゴロと勝手に向こうからやってきます。1 つは田んぼに凝縮された自然が教えてくれます。そして、もう 1 つは人とのつながりや、子供たちが教えてくれます。
自然と人がつながるとき、そこに、自分が他の生き物と同じ仲間であることを感じられ、明日を生きる力がみなぎります。田んぼで飲む酒がうまい理由が、やっとわかった 3 年間のたんぼの学校でした。

尾辻さん、奥さん、皆さん、この場を借りて、感謝を申し上げたいと思います。
長い間、お世話になりました。ほんとうにありがとうございました。
これからも、この田んぼの学校でたくさんの豊かな経験をされることをお祈りいたします。

田んぼの学校に入学し、３年の月日を過ごさせていただきました。

サッカー観戦第一主義のため、シーズン中は、試合と重なると欠席したりなど、あまり真面目な生徒ではありませんでした(笑)
(そういう本日も、大事な卒業式だというのに、この場は主人に託して大阪まで応援に行っちゃって欠席です。)

そんな私ですが、田んぼの学校の時間は大好きでした。
太陽を浴びながら、土に触れ、水に触れ、植物に囲まれていると、どんなに疲れていてもパワーをもらってどんどん元気になりました。
多くの方々と出会え、ときに肉体労働をしながらも、たくさん笑い、たくさん食べて、本当に楽しかったです。
さまざまな田んぼ仕事も思い出深いですが、放課後の飲み活動もめちゃめちゃ楽しかったです。
小宮山シェフのおかげて美味しいお料理をいただきながら、日没終了になるまで火を囲んでの魅惑の時間。
こっちの方は出席率良かったかもしれません(笑)
稲刈り後の充実感といい、焼き鳥をひたすら焼いた夏祭りや、友人を招いての収穫祭、初めての縄ないや注連縄作りなど貴重な体験もいっぱいでき、本当にいろいろな楽しさがいっぱいつまった時間をすごさせていただきました。

本来なら、自主的に留年して、また今年も参加したかったのですが、５月に私の母と暮らすため、実家のある松山に帰ることにしました。
なので、残念ながら、いったんここで卒業致します。
かなり、寂しくてたまりませんが、サッカー遠征で、たまに東京にも来るので、ひょっこり顔を出すかもしれません。
その時は、ぜひよろしくお願いいたします。

本当にありがとうございました。
田んぼの学校のますますのご発展を祈りつつ、卒業の感想文とさせていただきます。
・・・感謝を込めて。

2017 年 3 月 12 日
原田康子

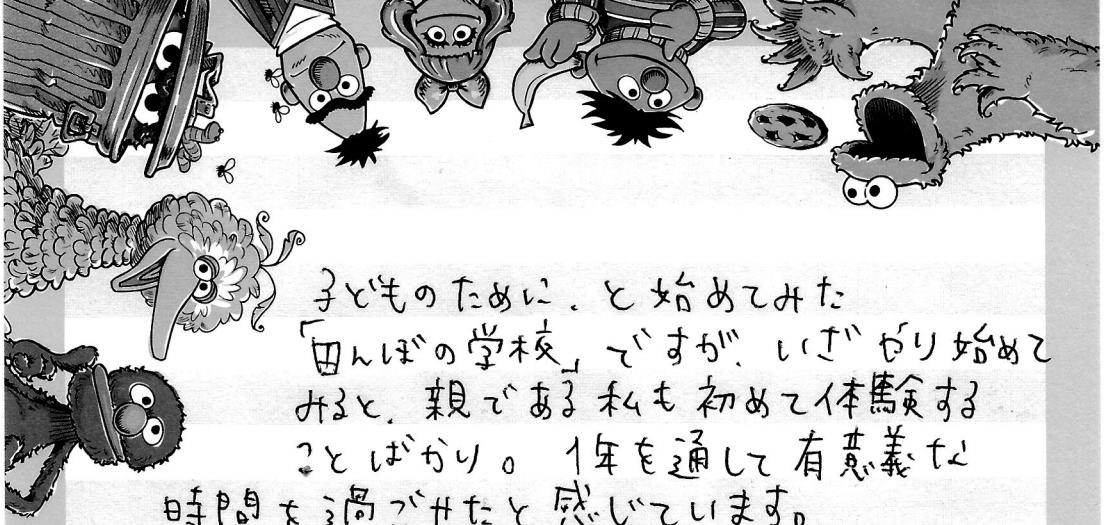
田んぼの学校

高橋　由紀子

　田んぼの学校を始めて４年目が終わりました。
１年目に率先して水路で遊んでいた長男は中学生になり、今年度はほとんど参加をしてくれなくなりました。私たちも、学校やその他の行事にかさなるとこが増え、今年は何回参加できたかなという状況でしたが、田んぼに参加をしているとお日様や雨のありがたさや、台風の脅威、そして季節を身近に感じることができました。
　市内のある小学校では、数年前から近隣の田んぼでの田植えができなくなったり、こんなに田畑がひろがっている佐須周辺の小学校でさえ、広い田んぼでの田植え経験ができず、校庭の片隅での田植え体験になったりしています。また、最近では衛生面でのお餅つきの開催の話題がありましたが、地元小中学校では、もち米を提供してくださっていたお米屋さんのご都合で、お餅つきがなくなりました。そんな中、自分達でつくったもち米でお餅つきができる収穫祭は、お米作り同様に、こどもたちにとって貴重な体験の場になっていると感じます。

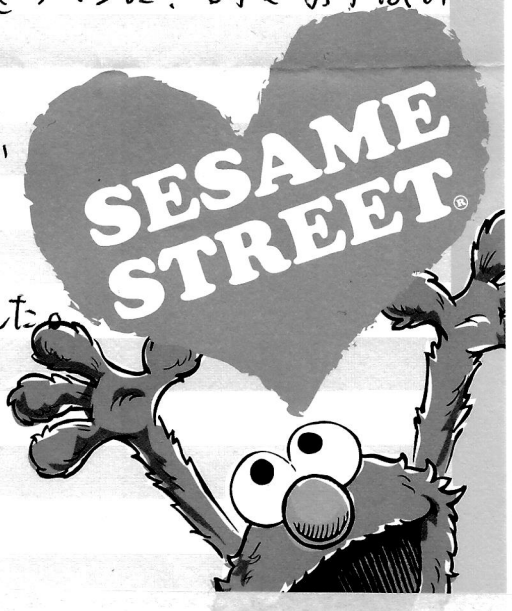
　「田んぼの学校」の魅力は、１年を通じて田んぼのすべてにかかわれること田起こしからはじまり、くろつけやしろかき、田植え、日々稲の成長を眺めながらかかしを作り、稲刈りをする。脱穀した稲わらから、しめなわや、わらじをつくり、次の年の田んぼへとつながっていく。田植えや稲刈りだけの単発の体験だけではわからない、田んぼと天気や水、生き物との関係性や、稲わらの使い道なども学ぶことができました。
　だんだん忙しくなっていく息子達ですが、田んぼとかかわることで、目の前のことだけでなく、それを取り巻く環境や考え方にも目を向けられるようになっていってほしいと思います。

　一年間、ありがとうございました。



子どものために、と始めてみた
「田んぼの学校」ですが、いざ始めて
みると、親である私も初めて体験する
ことばかり。1年を通して有意義な
時間を過ごせたと感じています。
子どもたちも遊ぶことをメインに、時々お手伝い
したり、しなかったり。
楽しく田んぼの流れを
体験出来たのではない
でしょうか。

1年間ありがとうございました。



高倉なつ子

たんぼのがっこうのかんそう

TM and © 2007 Sesame Workshop, SSWJ / TOKYO. All Rights Reserved.

1ばん いんしょうに のこっていることは
おさかな と むし をつかまえた ことです。
おおきい かえる や おけら は はじめて みました。
おまつりで てっぽうをつくったり、はなびをみたことも
たのしかったです。や き とり もおいしかったです。
おこめづくりは きかいで おこめを だっこくしていたところを
みれて、うれしかったです。
じぶんで つくった おこめは おいしかったです。

田かくりこうた

父代筆

田んぼの学校 2016 年度を終えて

　たんぼの土壌作りから、稲を収穫するまで一年間通じて体験できたことが、自分にとって、大きな収穫だったと思う。　初めは子供に体験させてみたいとの思いで始めた田んぼだったが、いざ始まってみれば、子供は子供同士で遊びに夢中。親の私達が必死に泥水まみれになり、田んぼの一つ一つの課題に必死になった。どこかで子供が泣いてる…と思ったら、自分の子供だった、なんていうことも何度かあった。そのくらい、夢中で田んぼに向かっていた。その姿を見て、子供も自主的にやってみようか…ということも(少しは)あったので、結果的にはそれで良かったのだと思う。こんな体験は、自分だけ、家族だけでは決して得る事が出来ない。何気なく口にしているご飯の大切さも、子供に口で教えるより何倍も伝わる…(伝わっているといいな)と思うし、もちろん、自分でも再確認出来た。　火起こし体験も、芋掘りも、注連縄作りなどのイベントも、子供たちはもちろん、大人の私も本当に楽しかった！　毎回楽しくご指導下さった尾辻先生、支えて下さった方々、そして、いつもワイルドな料理を振る舞って下さった小宮山さんにも、心より感謝申し上げます。どうもありがとうございました！

寺澤　大吾、優子、蓮、萩

時安

2012年に初めてたんぼの学校に参加してから今年でもう4回目の参加となりました。当時4歳だった娘がもう9歳になりました。
私自身が北海道の畑作のど真ん中の土地でそだったため、田んぼは未知の領域でしたが、一つ一つの作業に日本人の長年の知恵と工夫がつまっていることに、また豊な自然とともに生きてきたんだという実感に、いつも感動しています。

子どもは虫取りや泥遊びなどに夢中でたんぼの作業自体にはほとんど興味をしめさずに遊んでばかりいましたが、用水路や落ち葉堆肥で昆虫やざりがにを取っていきいきと遊んでる姿をみて、とても平和で幸せを感じました。

子どもたちが少しでも食の大事さを肌で実感して、大切にする心をもって成長していくことを願っています。

このような場を、調布という都心で実現できることに、大変の感謝をしています。ありがとうございました。

感想
小林天樹

田植えと稲刈りでニホンアマガエルがたくさん捕れて楽しかったです。

小林盛方

身近に本物の田んぼがあって、そこで米作りの体験ができたことを幸運に思います。
息子は、そこにいろいろな生き物がいることを知り、授業以外でもたびたび出かけるようになりました。
よそのお子さんも、生き物捕りや泥遊びなど、田んぼならではの遊びを楽しんでいる姿がみられました。
これからの子供たちのためにも、「田んぼの学校」がますます発展されることを祈念いたします。
1 年間、本当にありがとうございました。

田んぼの学校を振り返って

２０１７年3月１１日
沼田家を代表して
沼 田　貴 明

田んぼの学校六年生である我が家は、子供たちの学年が上がるのに伴い田んぼの学校の出席率が低下しました。あまり優秀な生徒とはいえませんね。
また、今年度はついに夫婦二人だけで出席したこともありました。二人の娘たちは少しずつ自分たちの世界を作りつつあります。寂しくもあり嬉しくもありです。かつては私も通った道なので広く暖かな気持ちで見守りたいと常々思っていますが、なかなか思うように自らの言動が伴いません。反省の日々です。

田んぼの学校の学習を通じて子供たちの成長とお米作りを重ねあわせて考えることがあります。お米は雑草取りから始まり田植えや稲刈り精米に至るまで人の手を経ずしてお膳に上がることはありません。それらの仕事には人の苦労が必要ですが、太陽、雨、気温といった自然環境の安定が必要です。近年の自然災害と人による環境破壊に接する度に子供たちが無事の育っていくのか、安全な食は維持できるのか、と考えます。
とは言え、私がいくら大上段に構えたところで私自身何も変わりません。ではどうしたら良いのか。私なりの回答としては、苗を一掴みずつ植えていくことであると思います。何もしなければ「評論家」に過ぎませんから。

入学前はほとんど考えなかったことです。もう少し考えていきたと思います。来年度もよろしくお願いします。

NO.

DATE

和彩

田んぼの学校に~~来る~~行くことがあまりなくて、

~~そんなに~~

参加できたのは、カカシ作りと収穫祭、炭やきデイキャンプ

くらいです。

その中で私が1番楽しかったのは炭やきデイキャンプ~~です~~の、

火おこしです。火をつけるのは大変だったけど火がついた時

とても嬉しかったです。

来年はもっと沢山(たくさん)、田んぼの学校に行きたいです。

KOKUYO

＜植木修一＞
尾辻さんご夫妻を始め、スタッフの皆様方
出来の悪い生徒を暖かくご指導頂き、ありがとうございました。
初めて自然や農業の楽しさや厳しさを学ぶことができました。
田植えから収穫までだけでなく、そこにたどりつくまでの行程や課外授業（笑）など、
とても充実していました。
一年間、出席日数は足りていませんが、ありがとうございました。

＜植木灯＞

私は、田んぼの学校に行って良かったと思いました。
とくに楽しかったっことは、田植えとしろかきです。
理由は、田植えは少しだけ、どろで遊べたからで、
しろかきもいっぱいどろで遊べたからです。
どろでおよげたのもたのしかったです。
あと小宮山シェフの料理もおいしかったで〜す♥

私が生まれ育った所は田んぼが広がる田舎町です。おたまじゃくしややごを
つかまえたり、秋にはとんぼを追いかけて遊んでいました。そんな自然の中で
子供達を遊ばせたい、自然にふれさせたいという思いから今年度一年
間、田んぼの学校の受講生となりました。
田んぼの学校での体験は驚きの連続で、まず最初に足を踏み入れた
原っぱが田んぼになるということにびっくりしました。無農薬で育てると、こ
んなにも植物が自然に豊かに生えるのかと驚かされました。それと同時に
田んぼに囲まれた育ってきたはずなのに、何も知らなかったとはずかしい
気持ちにもなりました。
雑草も田んぼのこやしになり、かりとられた稲わらは草り等に
化け、ムダなものは何一つないんだと教わりました。

子供達は田んぼでの作業よりも水路遊びが魅力的だったようでしたが、初めてザリガニをつかまえた時のはじけるような笑顔や、大きなカエルを見つけてつかまえた時の満足気な顔は私にとっても大切な思い出となりました。

おんぶをして参加していた三男も、収穫祭の時には歩けるようになり、かりとりがおわった田んぼの中を自由に歩き回っている姿に成長を感じたりもしました。

この一年間、親子でドロまみれになって過ごした時間は、私達の共通の話題となって親子の会話に花を咲かせてくれました。卒業式を迎えるにあたっても、「こんなことが楽しかったね」「あれがすごかったよね」等とふり返ると話が止まりませんでした。それほど、子供達にとっても貴重で思い出ぶかい時間だったようです。

すべての回に参加できなかったのは残念でしたが、親も子も一生懸命、
そして楽しく参加できた事が何よりだったと思います。
一年間本当にありがとうございました。

水野 真知子

水の光

ザリガニがたんぼにいることにびっくりしました。
ザリガニをとってそだてられたことがうれしかったです。
また、おけらやヤゴもはじめてみれてとれたことが、
うれしかったです。

いきものがかさん

正の　えいた

ぼくは、ばえいきものかかさんがすきです。なぜかというと、いきものがだいすきだからです。いきものをとったりかれさうしたり、やごはとれてからうちでそだてたらある、雨のあさにつすばきとんぼがぼくのうちのまえの木にとまっていてびっくりしました。かえるもつかまえられてうれしかったですまた田んぼの学校に入りたいです。

今年のふりかえり

西山　大樹

ぼくは今まで遊んでいたけれど、今年は少しだけ手伝いをしました。学校の総合的学習でもいねかりはしましたが、一人二本くらいなのでどれだけ大変かは田んぼの学校でないとわからないと思いました。いねかりはわをいれないといねをかる事が出来ないので、大変で何度もくりかえしているとばてててしまうので、一人で米を育てるのは大変な事だと知

りました。かかし作りでは、コギリで木を切って形をととのえたりスプレーで色をつけてカラフルにしたりしているうちに楽しくなり、スプレーをたくさんかけてしまいました。来年は少しではなく、できるかぎり手伝い、学ぼうと思います。

岡山 光明

田んぼに通って思ったこと

今年も出席率は悪いですが、田んぼに通うことができました。うちから田んぼに来るまでは自転車で通っていますが、田んぼに来るまでの風景、田んぼの景色をみると、普段の仕事の疲れやもやもやもをぜんぶぶっとした気持ちになります。

もう何年も田んぼに通っていますが、毎年毎年新しい発見があります。子供たちにも、田んぼに来ることで何か感じて見つけて欲しいと思っています。10年後20年後に、田んぼでの共同作業の体験が役立つ時が来ると信じております。

話は変わりますが、これから地球上での自然環境の変化、人口増加、飢餓の問題はますます深刻になっていくことでしょう。
各国は自国の利益を守ることや経済最優先の政策をすすめています。
しかし、ここで少しだけ立ち止まって、まわりを見渡す必要があると思います。
田んぼは共同作業でお米が収穫できて、みんなで支え合ってなりたっています。

共同社会での原点はささえ合うことではないでしょうか。田んぼには原点があります。

このりくつをそのまま世界にあてはめるのは難しいと思いますが、やはりささえあって生きていかないと、いずれ自分も倒れます。

このささえ合いの精神はいつまでも失いたくないですし、子供たちにも引き継いでいってほしいと思っております。

いろいろあった一年間

西山 光樹

ぼくは田んぼに行くために自てん車で行きました。それでぼくはこう思いました。家から田んぼまでは遠くて川へでした。だんだん行くうちになれて行けるようになりました。

はじめに

ぼくはかい校しきに行きました。川が花見しました。楽しかったです。

ぼくはしゅうかくメニューでおもちを食べました

た。とてもおいしかった。たです。一番心にのこったのがあんこもちときなこもちです。それがとてもおいしかったです。

ぼくはかがしを作りました。作ってるところで一番おもしろかったのがかがしに名前をかけたことです。それでおもしろいかがしが作れました。

ぼくはいねかりが大へんでした。なぜかというといねをかるときにたばねたりカを入れるからです。

さいごにいろいろあったけれどおもちはいねがりとか田うえをしたりしなくちゃ食べれられない。ということがわかりました。

Theme

No.

Date . . ( )

田んぼの学校 4回目の卒業　増川 拓弘

～今年1年をふり返って～

早、4年目の田んぼが終わった。長江先長江さん、皆さん本当にお疲れ様でした。今年はスタッフとして、他の人にも教えたり、作業の準備をしたりと、忙しかった。なが沼同じスタッフのメンバーと助け合ったり議論したり、稲の成長や米づくりの作業をこれまで以上に深く理解することができたと思う。

これまで以上に里山や佐須地域にも視線を広げることのできた1年でした。
雑木林ボランティア講座
長江さんやスタッフと今後の田んぼをどうやって継続していくかの議論やでは、水と地域と人が田んぼにとっていかに大事かを考えさせられた。また、田んぼや里山のない地域がつまらないものになっていくかも分かった。

私は徳島の田舎で育ち、実家は農家で田んぼもある。生まれた時から田んぼが隣りにあり、生き物が身近にいたものの、それが当たり前の生活で、ありがたみを感じたこともあまりなかった。

生き物は水や里山などの自然のなかで生きる。その水を人の住んでいるまちなかまで引き込んでいるのは、田んぼの存在だ。田んぼが水とともに生き物を受け入れ、まちにうるおいと生命力を与えていると思う。

私はふる里を少し離れてしまったが、弘大が生まれ大人になって改めて田んぼに触れ考え、こうやって仲間と一緒に作業できることがとても楽しいです。このような機会を与えてくれた長江さん奥さん、そして、一緒に仕事をしてきたここにいる皆さんに感謝しています。
ありがとうございました。

4月からは、狛江第一小学校のPTA会長と、狛江市PTA連合会会長を務めることになりました。これもめぐり合わせと思い、がんばりたいと思います。新年度からは狛江のことも宜しくお願いします。

終

田んぼの学校　　増川和美

今年で4年目の学校生活です。

活動内容は毎年同じですが
個性豊かなメンバーに囲まれて
今年もたのしい1年間をすごせました。
皆様、ありがとうございました。

感想も、毎年、感じる事がちがっていて、

1年目…ほんとうに種から芽がでて、実に育って、それを食べられるんだ。
土や水、おひさまってありがたいな。

2年目…昨年にやり残した作業、こんなにあったんだ。
この作業にはこんな意味があったんだ。

3年目…ムダがない！ごみがでない！

今年…つながっている。
季節も作業もつながっている。
おわりのようで始まりで、始まりのようで、
すでに次への作業にむけての終わりで…。

この卒業式も入学式（開校式）への準備なのかもしれません。
大切なことを、本やことばでなく、作業や自然が教えて

No.
Date

くれます。
いつまでも その教えを 自分からつかみに行く
人間でありたい と。
この4年で おもいました。

また 来年度も よろしくお願いいたします。

尾辻さん。皆様 ありがとうございました。

maruman

一年間 田んぼの学校で学んだこと

村田 真也

田んぼの学校にて一年間学ばせて頂き、貴重な経験をさせて頂きました。お米の作り方は知っていましたが、ここでは田んぼを作る所から始めました。雑草がたくさん生えていた所を草むしりからして、土を作り、水を入れて田んぼにする経験ははじめてだったので、楽しかったですし、非常に勉強になりました。田植や稲刈をする機会はあっても、田んぼを作る事はありませんでした。子供達は泥遊びみたいになっていましたが、普通の生活では経験できない事なので、今後の糧になればと思います。まず、東京都内で田んぼ作りができるとは思っていませんでした。それだけ調布市の佐須エリアは自然環境が整っているのだと感じました。確かに水路にたくさん生物がおり、良い環境だと思いました。しかし、講師の先生もおっしゃていましたが、以前より見られる生物も減ってきているとの事でした。自然環境の変化以外にも温暖化などの問題も有ると思います。便利な暮らしの中で、多くの二酸化炭素を排出している事が問題と思います。日々の生活の中で環境に配慮した行動をしなくてはいけないと思います。10年後、20年後、自分の子供達に今以上の自然環境を残してあげないといけないと思います。一年間を通じて様々な活動に参加させて頂き、有難うございました。運営における準備、後片付などして頂き、有難うございました。特に参加させて頂き、良い経験となり、子供達に経験させてあげれた事が一番良かったです。一年間をご教授頂き有難うございました。

2011年3月11日　村田 真也

一年間　田んぼの学校で学んだこと

村田　久美

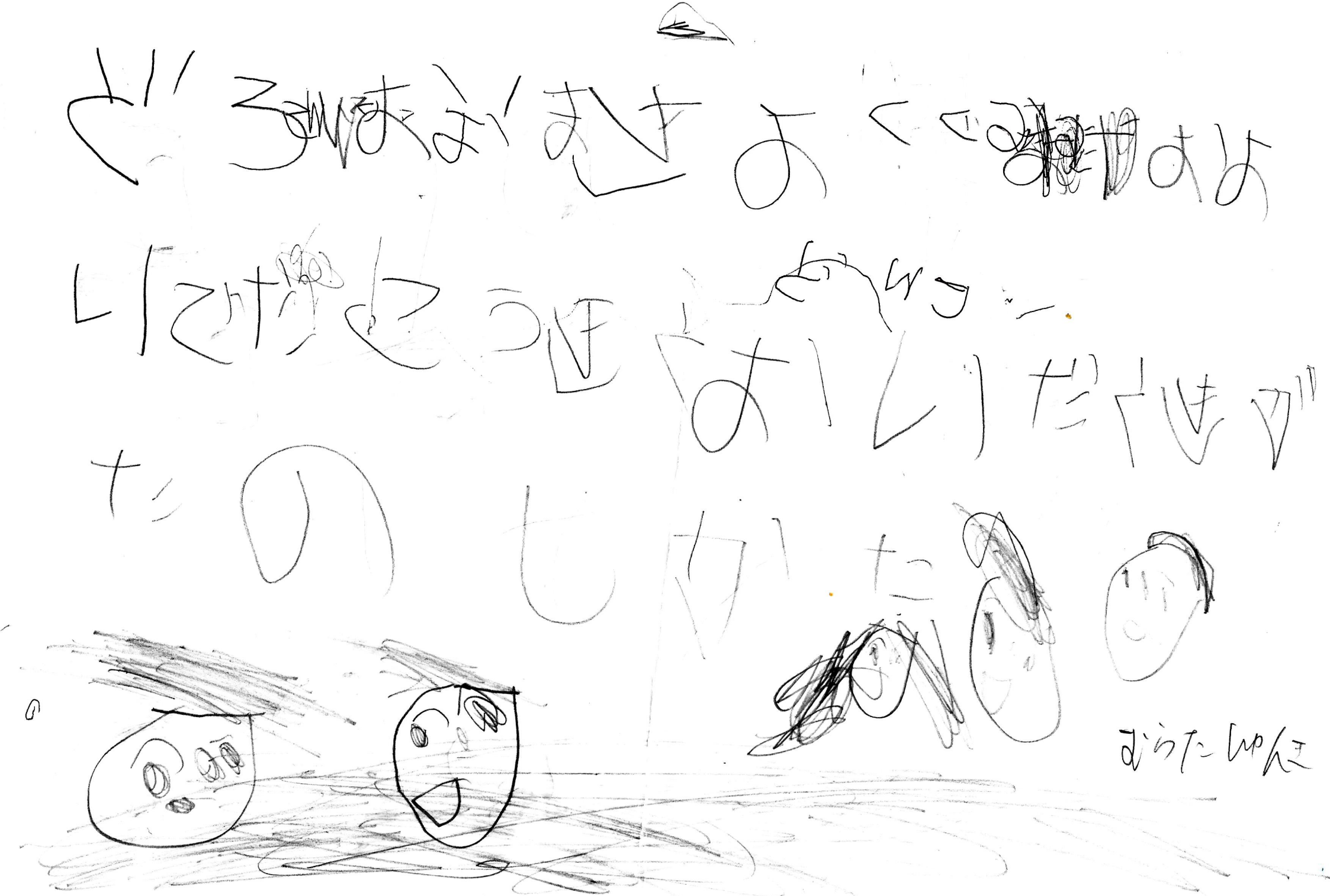
私達家族は転勤族で、ちょうど2年前にこの調布に引越してきました。東京にくる前は岩手県に1年半いました。岩手県にいるときには、広大な田んぼ畑が広がり里山あそび場　住んでいる近くに田植えも経験しました。ほかにも自然遊びも身近なところで出来、あ～東京にいくとこのような自然体験はなかなかできないのかな～と思っていました。そこで調布のことを調べていると、この田んぼの学校という活動を発見し、やってみたいな～と思いました。この田んぼの学校でとても良かったと思うのは、田植えだけでなく、田植えまでの工程も体験できたことです。くろつけ、しろかき、苗取り、ほんとに体験したのは貴重だったと思います。

東京や私の実家の人のお友達に知らせると、びっくりするお友達がいて、調布のお友達でもほとんどのお友達は知らないみたいなので、もっとみんなにこのようなすばらしい学校を知ってもらえるといいなあと思いました。

うちの子供達はまだ小さいので、お米作りの過程を理解するには難しいですが、用水路に入って生き物探しをしたり、泥んこになって、思うがままあそべたり、のびのびさせてもらって、ほんとに楽しく過ごさせてもらえました。（私の子供が行っている若葉小の近くに若葉の森があります。今その森をけずり家ができるそうで、自然がどんどん少なくなるのをさみしく思いますし、子供のためにも自然、緑豊かな田んぼは残していってほしいなと思っています。）

→うらへ

初めて参加させていただきましたが、何度もこの田んぼの学校を経験したベテランパパさんママさんにいろいろ教えていただき楽しく家族で初めて田んぼの学校を経験できて、勉強になり、いい体験になりました。ありがとうございました。


むらたしゅんこ

ぼくはごーしゅんがどうつくられるのかわかった。

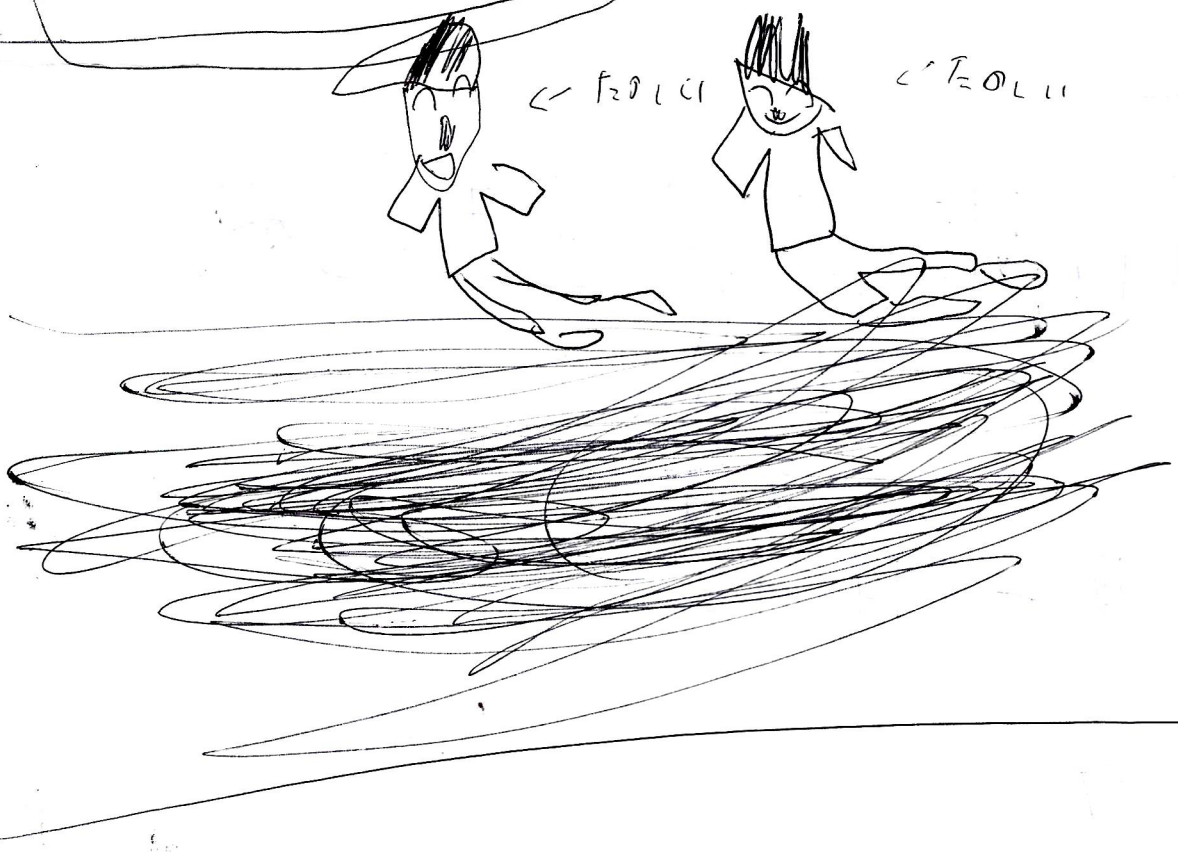
しまかにはいられない

◎ドロでいっぱいあそんでたのしかったです。

◎1年間ありがとうございました。

~~◎はやく~~

◎~~ドロ~~またま



すいろであそぶのが
たのしかった。

たうえのとき、なえを
あらったり わけたりを
てつだえました。

とれたてのおこめ
おいしかったです。

むらさき
わかな

田んぼの学校 2016 年度感想

田んぼの学校 2 年生の私は、最初の参加がボランティアの夏祭りでのやきとり販売と記憶しております。
第二回目の投稿が稲刈り。それ以外はまったく参加できず、2 年生にして不登校児（不登校おやじ）になってしまいました。
一昨年の楽しい記憶は鮮明なので、3 年生になる来年度は積極的に参加できればいいなあと思っております。
不登校だったのですが、それが理由なのか環境問題への意識はとても強くなったように思います。この意識はしっかりと継続できればと思っております。
短文で恐縮です。
今年度もありがとうございました。
来年度もどうぞ宜しくお願いいたします。

大内央（おおうちひさし）

田んぼの学校の授業に参加して（28年度）

田原　晋介（父）

田んぼの学校に入って６年。子どものためにと思って始めた田んぼの授業は、虫嫌いの私にとっての教育訓練プログラムで、おかげで今では大分免疫ができました。まだ虫を好きになる事はできませんが、虫達が足によじのぼってきても取り乱す事なく、落ち着いて対処できるようになりました。

長男が土日にサッカーを始めてから、家族もサッカー中心の生活になってしまっているのですが、まだ虫を好きになれていませんので、ご迷惑でなければ来年も参加したいと思っております。よろしくお願い致します。

田原　早希子（母）

６年前、足に泥が付くだけで泣いていた息子は９才となり、今年は妹と田んぼの泥の中で泳いでいました。

父親に似て、喜んで泥の中に飛び込むタイプではないですが、それでも毎年少しずつ前進して、今では躊躇しながらも泥の中へ入り、楽しく遊ぶことが出来るようになりました。

田んぼの学校に入っていなければ、泥・虫といった苦手な分野は避け、好きなことばかりして過ごしていたのではないかと思います。妹も同様、生まれた時から田んぼの学校に通っていたおかげで、田んぼが身近なものとなっています。

息子が土日にサッカーを始めてから、授業に参加できる回数が減ってしまいましたが、それでも田んぼの学校に在籍していることで、生活の中で自然を感じることができます。来年も参加させていただきたいです。

田原　大悟（小３）

土日はサッカーがあるので、あまり田んぼへ行けなくなってしまったけれど、もう泥は苦手ではなくなりました。今年は、妹と一緒に泥の中で泳いだ事が楽しかったです。

田原　鈴（５才）

今年は案山子の「かーくん」を作りました。収穫祭では、きなこ餅がおいしくて、何回もおかわりしました。来年も食べたいです。

「田んぼの学校」で学んだこと

H29.3.12　藤井一輝

娘が小学校に入学してから家族 3 人で、田んぼの学校で学び始めて、今年でちょうど 6 年になります。

娘の小学校卒業に合わせて、4月からは私の実家の四国の香川県綾川町にUターンすることになりました。3人とも今年が本当の意味での「田んぼの学校」の卒業になります。

今年の感想文は6年間を振り返ってという感じになってしまいますがご了承ください。

6年前、娘が同級生だった内田さんご家族から紹介されて、田んぼの学校での生活がスタートしました。

私自身は四国の兼業農家の出身でしたので、田植えや稲刈りの手伝いをした経験はありましたが、まさか東京の新宿に近いこの調布市で、家族で田んぼに関わる様々な体験が出来るとは思っていませんでした。

一番良かったのは、娘が豊かな自然、動物や植物に接することが出来たということです。調布市や野川の流域でこんなにも豊かな自然が残っていることということは驚きでしたし、そのことを次の世代にも大切に引き継いでいかなければいけないということは強く感じています。

私が生まれ育った地方では、小さいころ実家の前の川で祖母が洗濯をしたり、川の岸の石段の隙間からモクズガニやナマズをつかまえたり、近くの雑木林でカブトムシやクワガワをつかまえて遊んだりしていました。祖母が自宅の私たちの糞や尿を畑に運び、私たちが食べた後の生ごみは小屋に運び、発酵させて土にして肥料としてやはり田んぼや畑にまいていました。その環境が、四国の香川県の田舎であっても今はありません。

田んぼの学校では、美しいホタルや、ホウネンエビや腐葉土の中のカブトムシの幼虫や、春の七草など豊かな自然に触れ合う機会がたくさんあり、おかげで娘も生き物に普通に接する子どもに成長してくれました。1月 7 日に七草がゆに入れて食べる野菜が田んぼで生えている雑草の中に複数含まれているということも驚きでした。

そして用水路の清掃を通して、人間がどれだけ人工のものを作り出して、自然を汚しているか、感覚的にでも娘が感じてくれたのかなと思っています。

2つ目は物の価値を知り、無駄にせず、生かして大切にするということを学びました。お米、一粒一粒に神様が宿っているという話は祖母から聞いたことがありましたが、「田んぼの学校」での注連縄作りや縄綯いの授業の時に、特に物を大切にすることを学びました。技術的には何年やっても尾辻さんのようにきれいに縄を綯うことは難しかったのですが、それでも、コメの副産物ですが、食べられもしないワラを使って、お正月に玄関に注連縄として飾ったり、草履を編んだりすることは、「もったいない」ということを大切にしてきた日本の素晴らしい文化でもあると思います。

3つ目は地域との関りがとても大切なのかと思います。夏祭りで焼き鳥を焼いたのもいい

思い出です。炭の煙で目が痛くなったり、鼻水が出たりもしながら、おいしい国産の焼き鳥がどんどん売れていくのは快感でした。娘も売り子や会計係など夏祭りは毎年休まず参加出来ました。

どんど焼きも今、残っている地区は少ないのではないのでしょうか、伝統行事を通じて地域が結びつき、自然を守りながら、地域の人との関わりも大切にしていくことが必要なのかなと思っています。

4月からは四国で私たちは新たなスタートを切ります。それでもこの6年間の「田んぼの学校」で学んだことを生かして、自然を大切に、物を大切に、そして地域の結びつきを大切にしていきたいと思います。尾辻さん、奥様、スタッフの皆さん、本当にどうもありがとうございました。将来、小さな田んぼであっても自分たちで作ることが出来ればと思っています。

田んぼの学校の１年間を振り返って　　Ｈ２９．３．１２

藤井紀子

田んぼの学校には、娘が１年生の頃から通い始め、６年生となり、参加出来ないこともありましたが、皆さんのお蔭で今年も家族一緒に活動し卒業できることになりました。

今年一番娘の成長を実感したことは、デイキャンプです。火おこしで、子どもたちで時間をかけて燃やせる木などを集め、中に空気が入るように木を組んで１本のマッチで火をおこすことが出来、尾辻さんより合格をもらっていました。小学校での４年生の授業で、アルコールランプにマッチで火をつける時に、当時周りの子がなかなかつけられない中、丁度デイキャンプでマッチを擦った経験があったので、上手につけていたことをふと思い出しました。姪も風が吹く中、中々火をつけられなかったのですが、周りの大人の皆さんが見守り、アドバイスして下さり、いい経験となりました。その後、サッカーやボール投げを楽しそうに行っているのを見て、姪も田んぼの学校を皆さんのお蔭で楽しませて頂きありがとうございました。

今年度は、田植え、稲刈り、収穫祭と例年でしたら、娘は途中で飽きてしまい、遊びに行ってしまうのですが、どの作業もこちらが何を言うでもなく、黙々と行う姿勢が見られました。ついつい日常では、先回りして声掛けしてしまいがちですが、田んぼでは、周りの背中を見て実行してもらえるようにもなっていることが嬉しかったです。

職場でも、バケツ田んぼを行いました。順調に穂が育ち、そろそろスズメ対策で、網をかけたほうがいいと思っていたところ、スズメがお米を一向に食べる気配がありません。ここ数年職場でバケツ田んぼを行い、お米のない時でもすずめが来るようになっていたので、他の職員が、パンなどで餌づけを行っていました。それが功を奏して、お米には目もくれず、豊作となりました。

童話で、北風と太陽というお話があります。無理やりに洋服をはぎ取ろうとした北風よりも暖かな太陽で洋服を脱いでもらうというお話です。スズメやいのしし、シカなど農作物を荒らす動物たちと共生する方向がこれからは求められていると思いました。自然を破壊している人間が、動物とも共生するための活動をこの田んぼの学校を通して学びました。また、人間もいろんな年齢の方たちと、お互いにより良い形、地域で助け合い、子どもを見守り育てることなどが、益々求められており、その重要性を経験することが出来て、感謝しています。

田んぼの学校での体験が、娘を虫好き、自然好きにして下さり、中学からは香川に帰りますが、都会育ちの田舎っこにスムーズになれそうです。

また、私自身も裸足でしろかきをしたり、土に触れる中で、自然と園芸に向かわせて、職場では園芸療法を通して、種をまき、水をやり、育て収穫し、調理をして食すという一

連のことを、お年寄りと穏やかな時間の中で、沢山経験することができました。

藁で、注連縄をお年寄りと作った時は、農作業を経験したことがない方も多く、初めてだけど楽しいという感覚を体験していただき、年齢を問わず伝えていくことの大切さも学ばせていただきました。

この田んぼの学校を家族 3 人で参加し、多くの学びを得ることが出来ました。尾辻様ご夫妻、スタッフ、皆さまのお蔭と感謝しています。ありがとうございました。

この1年を振り返って

平成29年3月12日　藤井　悠奈

今年度も習い事やいろんな行事で、最後の1年だからなるべく出よう、と思っても中々参加する事が出来ませんでした。

大きな行事で参加できたのは田植え、かかし作り、夏祭り、稲刈り、収穫祭、デイキャンプなどです。

その中でも特に記憶に残っているのは夏祭りとデイキャンプです。

まず、夏祭りでは主に会計係をやり、ときどき焼き鳥の炭火焼きを手伝っていました。いつもは会計係を始めにやり、途中飽きたら売り子をやり、それも飽きたら夏祭りを楽しんでいたのですが、今年は初めて焼き鳥の炭火焼きをやらせてもらい、普通ならできない体験が出来ました。目に煙が入り、痛かったのですが、いつもは大人達がやっていることを自分が出来てとてもうれしかったです。会計係では、金額早見表を用意して下さった方がいて、とても助かりました。ありがとうございました。

デイキャンプでは、いとこの子と一緒に参加し、火おこしを始めて子どもたちだけでやりました。いつもは8本から10本くらいマッチを使ってしまうのですが、今年は、2人で協力して2，3本のマッチで火をつけることが出来ました。火がついた時にはとてもうれしかったです。

最後に私はこの6年間で田んぼの学校でたくさんのことを学びました。

お米の作り方、火のおこし方・・・それらは学校などでも大いに活用することが出来ました。

尾辻さん、奥さん、皆さん6年間ありがとうございました。

今年の授業を終えて

今期も無事に全授業が終了いたしました。
尾辻さんご夫妻には、一年間大変お世話になりました。
ありがとうございました。

3年目の参加となる今シーズンは、
これまでで一番多くの授業に出席することができました。
うまく予定が重ならければ、今年はさらに多くの授業に出席したいと思います。

今期の授業を受けて、思ったことは年間の尾辻さんの授業日程とは別に
裏メニューならぬ「裏授業」があってもいいな～と思いました。
夏・冬の農閑期にあたる期間を利用した「裏授業」もしくは
「課外授業」的なものがはいると一層楽しくなるような気がします。
今シーズン好評だった小宮山さんの「こみちゃん亭」。
これが裏授業になったらさらに楽しいだろうな～と思いました。
例えば、「田んぼだからできる、美味しいサバイバル料理を楽しむ」とか
「農閑期にやっておきたい、手作り味噌の仕込み方」と言った
これまで小宮山さんに振舞っていただいた料理やドリンクの作り方などを
食べらがら覚えられるといったものです。
※ただ、これはこちらの勝手な妄想で、ご本人の承諾は取らせてもらったわけではありません。

またそれとは別に、収穫された「お米」にさらに愛着が湧くように、愛称を付けてはどうでしょうか。
名前は皆さん（お子さんも含めて）から公募して、決めてはいかがでしょうか。
お米を育てることは、我が子を育てることのような優しさも必要かなと感じました。

今年は、念願の学校紹介のパンフレットもでき、合わせて動画紹介も新たに作られるなど
広報活動にも力を入れた１年だったと思います。
実際にこの学校に通うことができない人も、調布の佐須に「田んぼの学校」が
あることを少しでも知っていただけると、この里山の環境にも関心を持っていただけることでしょう。

今期も、台風や日照りの被害もなく、笑顔で「秋の収穫祭」が迎えられることを願って
2016年度の終了の感想といたします。

2017年3月12日

入山敏之

「田んぼの学校に参加して」

わたしが一番楽しかったのは田うえです。とくになえをうえるのが楽しかったです。大さんだったとはどろに足がとれなくて大へんだったです。一年かんありがとうございました。萩谷詩絵里

女子

子供の頃を思い出し、懐かしい気持ちで作業ができました。年と共に子供にかえるというのでしょうか。田舎へ帰りたいようなそんな想いがしました。尾辻校長先生のお心遣いのおかげで楽しい1年でした。もう少し私が立派な大人になったら、子供達や地域の方の為に、活動を主催する側になれたらなと思います。ありがとうございました。

萩谷奈津子

７．総括報告

「野川で遊ぶまちづくりの会」
代表　尾辻義和

「田んぼの学校」という形で再スタートした、「野川で遊ぶまちづくりの会」の「米つくり」も第１６期を終えることになりました。今年度の参加者は基礎講座６組、親子講座２６組、スタッフ１４名、総勢１０４名となりました。

田んぼの作業は毎年同じ作業の繰り返しですが、同じようにできる事は滅多になく、目が離せません。幸い生育は順調で、玄米にして１０９Ｋｇほどを収穫しました。

今年度も、参加して頂いた方々には感想を書いて頂きましたが、「田んぼの学校」の趣旨がきちんと伝わっている事にたいへん嬉しく思っています。年々、参加したいという方が口コミで増えており、ほとんどの皆さんが継続して田んぼをやりたいと言っておられ、かといって、新しく応募される方にも加わっていただきたいとも思っているので、耕作面積は何とか増やしたいと今後も行政など関係する方々にお願いする次第です。

今年度は、調布市の事業により、佐須の里山保全に進展があり、この地域で田んぼが残すことができるめどができるようになりました。今後、行政がこの地域の畑や田んぼを取得するようなことが発生した場合、市民が畑や田んぼを継続して耕作することが望まれます。私たちの「田んぼの学校」事業がそのお役に立てるよう、事業を継続していきたいと考えています。

昨年も要望いたしましたが、多くの市民が集まって行うため、以下のような問題も放置できなくなりつつある状況にありますので、行政に少しでもご配慮いただければ幸いです。

（１）　手洗いやトイレ（現在は、竹内さんの設備を使用させていただいている）
（２）　休憩場所（竹内さんの敷地や道路を使用している。特に道路は子どもたちが遊んだりするため、通行する車に迷惑を掛けている）
（３）　道具類の置き場所（現在は、竹内さんの納屋などを使用させていただいている）
（４）　農器具が老朽化（耕運機、籾摺り機）して壊れてしまったので、代替えの機械がほしいところであるが、適当なものがない。現在は中古を購入している。

他にもスタッフ不足など問題はありますが、基礎講座を続ける方にお願いをしてスタッフになっていただきました。さらに、ちょうふ環境市民会議のサポートをいただくなど、少しずつ前進していきたいと考えております。皆様のご指導、ご協力をお願いして、総括とさせて頂きます。

以上

付録　　調査記録

佐須用水路、田んぼ動物確認種報告書

田んぼ植物確認種報告書

田んぼの学校　用水清掃活動時動物確認種報告

石川和宏（東京都世田谷区若林５－４０－７）

調査場所：佐須用水
調 査 日：2016 年 4 月 24 日（日）
調査方法：目視観察、タモ網による任意採集
天　　候：雨のち曇り

確認種（状況）による評価：

今回確認した種のほとんどが、過年度にも確認されていた。

しかし、優占種が大きく変化し、ミズムシやユスリカ科などの富栄養環境の指標種が大半を占め、カワゲラ類やトビケラ類といった、高い溶存酸素と低水温を必要とする渓流性の種がほとんど確認されなかった。

佐須用水は湧水由来であり、水質的には非常に良い状態が保たれていたが、今回の調査では、明らかに水質あるいは底質が変化したものと考えられた。

視覚的に把握できる大きな違いは、これまで用水中に多く生育していたオランダガラシ等の植物が除去されたことと、水底にどんぐりや落ち葉等のリターの堆積が例年になく多かったことがあげられる。

リターの堆積による底質の富栄養化と、用水中の植物が除去されたことによる有機物の吸収分解が減少したことが、環境の変化につながった可能性が考えられる。

過年度に再生産が確認されていたホトケドジョウは前年度調査に続き、今回調査でも確認されなかった。目に見える環境的な変化は認められず、原因は不明である。

確認種一覧（青字は貴重種、赤字は移入種であることを示す）

〔節足動物門〕

1. コカゲロウ科の一種　Baetidae Gen. Sp.　（コカゲロウ科）幼虫
2. フタスジモンカゲロウ　*Ephemera japonica*　（モンカゲロウ科）幼虫
3. ハグロトンボ　*Atrocalopteryx atrata*（カワトンボ科）幼虫
4. オニヤンマ　*Anotogaster sieboldii*（オニヤンマ科）幼虫
5. コオニヤンマ　*Sieboldius albardae*（サナエトンボ科）幼虫
6. シマアメンボ　*Metrocoris histrio*　（アメンボ科）
7. アメンボ属の一種　*Aquarius* sp.　（アメンボ科）幼虫
8. ケシカタビロアメンボ　*Microvelia douglasi*（カタビロアメンボ科）
9. カワゲラ科の一種　Perlidae Gen. sp.（カワゲラ科）幼虫
10. ユスリカ属の一種　Chironomus sp.（ユスリカ科）幼虫
11. ホソカ科の一種　Gracillariidae Gen. sp.（ホソカ科）幼虫
12. ガガンボ科の一種　Tipuliidae Gen. sp.（ガガンボ科）幼虫
13. カ科の一種　Culicidae Gen. sp.（カ科）蛹
14. ホソバトビケラ　*Molanna moesta*　（ホソバトビケラ科）幼虫
15. ニンギョウトビケラ　*Goera japonica*　（ニンギョウトビケラ科）幼虫
16. コカクツツトビケラ　*Lepidostoma japonicum*（カクツツトビケラ科）幼虫
17. スジエビ　*Palaemon paucidens*（テナガエビ科）
18. ミナミヌマエビ　*Neocaridina denticulata denticulata*　（ヌマエビ科）
19. アメリカザリガニ　*Procambarus clarkii*　（アメリカザリガニ科）
20. ミズムシ　*Asellus hilgendorfi*　（ミズムシ科）
21. フロリダマミズヨコエビ　*Crangonyx floridanus*（マミズヨコエビ科）

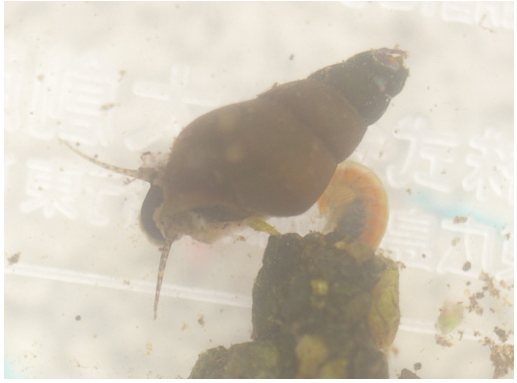
〔軟体動物門〕

22. カワニナ　*Semisulcospira libertina*　（カワニナ科）
23. サカマキガイ　*Physa acuta*　（サカマキガイ科）

〔脊索動物門〕

24. スミウキゴリ　*Gymnogobius petschiliensis*　（ハゼ科）
25. アズマヒキガエル　*Bufo japonicus formosus*（ヒキガエル科）

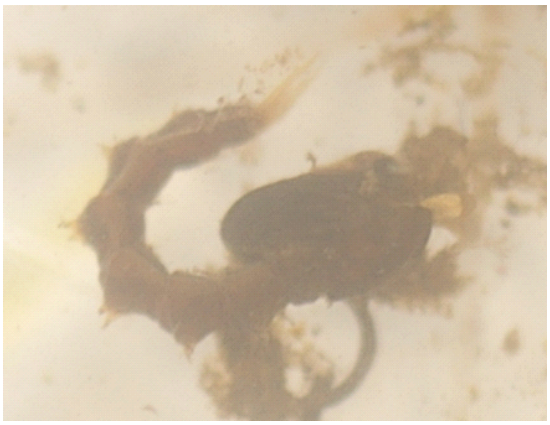
軟体動物



カワニナ

節足動物

コカゲロウ科の一種



カ科の一種

コカクツツトビケラ

ユスリカ科の一種

フタスジモンカゲロウ

スジエビ

脊索動物

スミウキゴリ

田んぼの学校　用水清掃活動時動物確認種報告

石川和宏（東京都世田谷区若林５－４０－７）

調査場所：佐須用水（本流及び分流）・水田
調 査 日：2016 年 7 月 3 日（日）
調査方法：目視観察、タモ網による任意採集
天　　候：晴れ

確認種一覧（赤字は移入種であることを示す）
〔節足動物門〕
1. フタスジモンカゲロウ　*Ephemera japonica*　（モンカゲロウ科）
2. コカゲロウ科の一種　Baetidae Gen. Sp.　（コカゲロウ科）
3. シマアメンボ　*Metrocoris histrio*　（アメンボ科）
4. ハイイロゲンゴロウ　*Eretes sticticus*　（ゲンゴロウ科）
5. チビゲンゴロウ　*Hydroglyphus japonicus*　（ゲンゴロウ科）
6. コカクツツトビケラ　*Lepidostoma japonica*　（カクツツトビケラ科）
7. ニッポンホソカ　*Dixa nipponica*　（ホソカ科）
8. ユスリカ科の一種　Chironomidae Gen. sp. (ユスリカ科)
9. カ科の一種　Culicidae Gen. sp.　（カ科）
10. ガガンボ科の一種　Tipulidae Gen. sp.（ガガンボ科）
11. ホウネンエビ　*Branchinella kugenumaensis*（ホウネンエビ科）
12. ミズムシ　*Asellus hilgendorfi*　（ミズムシ科）
13. フロリダマミズヨコエビ　*Crangonyx floridanus*（マミズミズムシ科）
14. ミナミヌマエビ　*Neocaridina denticulata denticulata*　（ヌマエビ科）
15. シナヌマエビ　*Neocaridina denticulata sinensis*　（ヌマエビ科）
16. アメリカザリガニ　*Procambarus clarkii*　（アメリカザリガニ科）

〔軟体動物門〕
17. カワニナ　*Semisulcospira libertina*　（カワニナ科）
18. サカマキガイ　*Physa acuta*　（サカマキガイ科）

〔脊索動物門〕
19. コイ科の一種　Cyprinidae Gen. sp.（コイ科）

確認種（状況）による評価：

今回確認した種の多くは例年と同じく、一般的な水田環境及び富栄養の環境に多く出現する種であった。ホウネンエビも確認され、水田生態系は、例年と同じ状態で維持それているものと考えられた。

ただし、春季に確認されなかったホトケドジョウは夏季も確認されず、再生産がうまく行われていない可能性があると考えられた。

調査時における水路の水自体の透明度は高く、水質自体が悪化した印象は無く、単純に底質組成が変化したことに起因したものと推察される。

カワニナ

サカマキガイ

シナヌマエビ

コイ科の一種

田んぼの植物確認記録

種名	確認箇所				備考
	2013	2014	2015.4/2	2016.3/24	
スズメノテッポウ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	
スズメノカタビラ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	
ナズナ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	
レンゲ	田んぼ	田んぼ	×	田んぼ	少し
コオニタビラコ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	
ムシクサ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	
トキワハゼ	田んぼ・畦	田んぼ・畦	田んぼ・畦	田んぼ・畦	
セリ	田んぼ・水路	田んぼ・水路	田んぼ・水路	田んぼ・水路	増えている
オオイヌノフグリ	畦	畦	畦	畦	
オランダミミナグサ	畦	畦	畦	畦	
ヒメオドリコソウ	塀際	塀際	塀際	塀際	
ホトケノザ	塀際	塀際	塀際	塀際	
ヘビイチゴ	畦	畦	畦	畦	増えている
ノゲシ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	田んぼ	
ウシハコベ	塀際	塀際	塀際	塀際	
カタバミ	塀際	塀際	塀際	塀際・畦	
オランダガラシ	水路内	×	水路内	水路内	
ヨモギ	畦	畦	畦	畦	
カントウヨメナ	畦	畦	畦	畦	
アブラナ科の一種	田んぼ	×	×	畦	ルッコラ（隣の畑より）
タネツケバナ	×	水路	水路	水路・田	
イヌコハコベ	×	畦	畦	畦	
ノビル	×	畦	畦	畦	
シロザ	×	×	田んぼ	田んぼ	隣の畑で増殖した種が侵入
ムラサキサギゴケ	×	×	畦	畦	
アメリカフウロ	×	×	×	畦	
ナガミヒナゲシ	×	×	×	畦	
ハルジオン	×	×	×	田んぼ	
アカミタンポポ	×	×	×	畦	
ノボロギク	×	×	×	田んぼ	
合計	20	21	23	30	

発　　行

２０１７年3月３１日
野川で遊ぶまちづくりの会
代表　尾辻　義和
〒１８２－００１６
調布市八雲台２－２０－８－２０１
電話　０４２－４８７－４３８５
Mail　otsuji@y.email.ne.jp
URL　http://nogawa-tanbo.sakura.ne.jp/